

Ⅱ 設問と回答分布

(※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります)

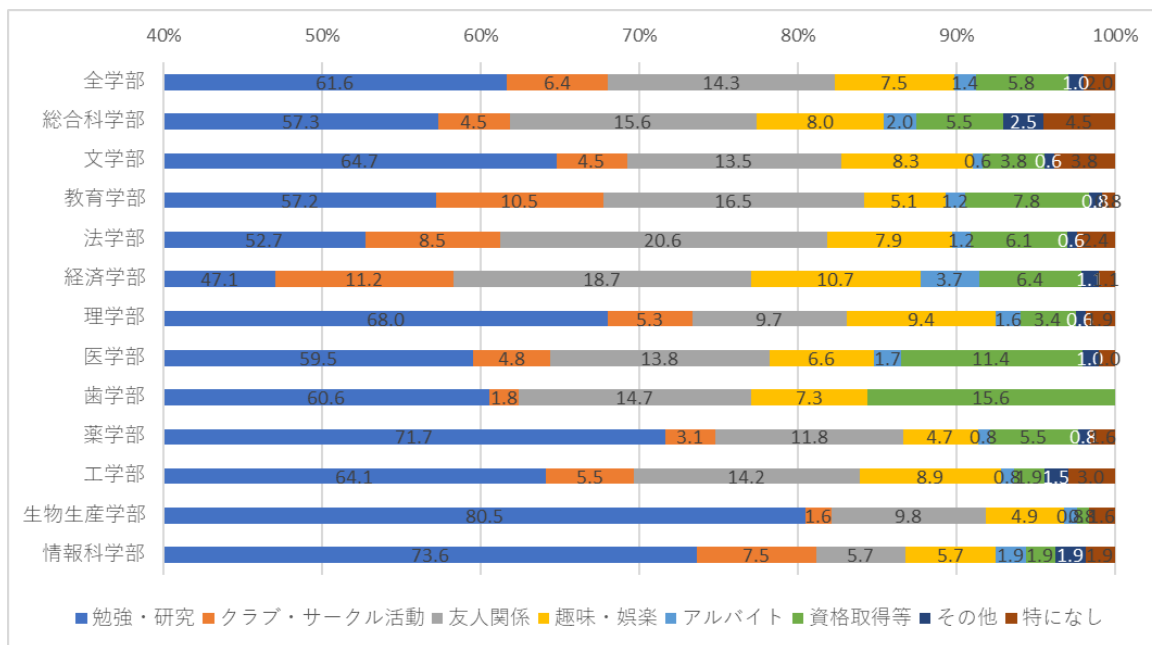
学部

1 大学生活において大切にしているもの

設問1 大学生活において何を大切にしていますか。

全体として、「勉強・研究」を大切にすると答えた学生が最も多く（61.6%）、前回より6.4%、前々回よりも9.3%増加していた。学部によって傾向が多少異なり、理学部・薬学部・生物生産学部・情報科学部において特にその割合が高かった。次に多かったのは、前回同様「友人関係」であったが（14.3%）、その次が、今回は「クラブ・サークル活動」（6.4%）よりも「趣味・娯楽」（7.5%）の方が多くこれまでと若干異なる傾向がみられた。

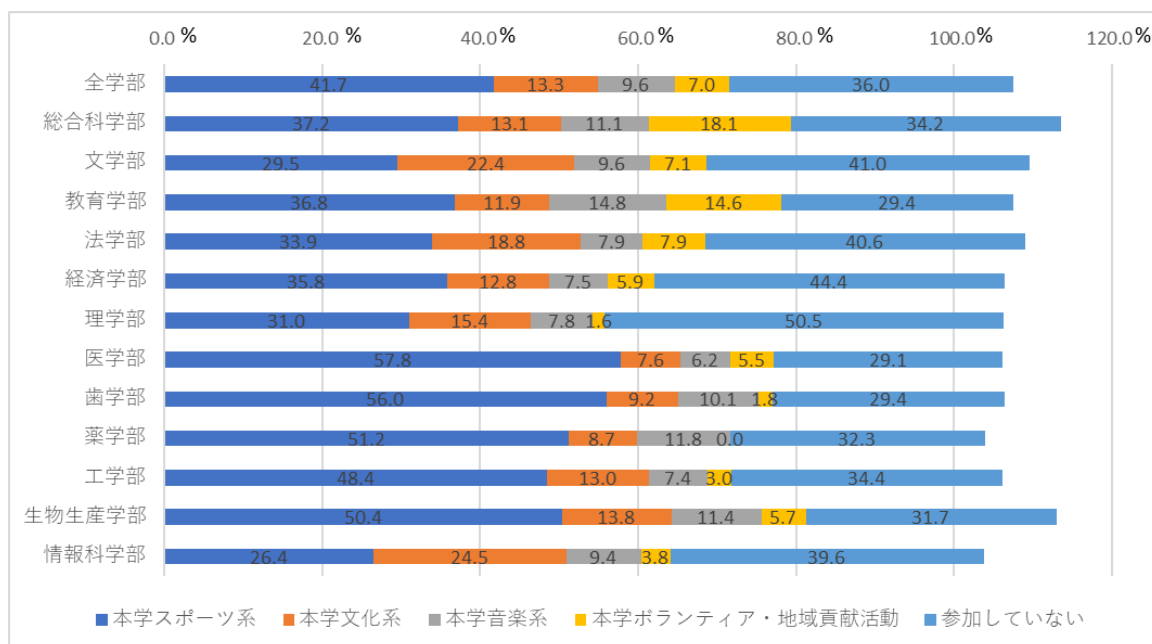
※ グラフの目盛りの最小値は40%



2 学内のクラブ・サークル活動への参加

設問2 学内のクラブやサークル活動に参加していますか。（複数回答可）

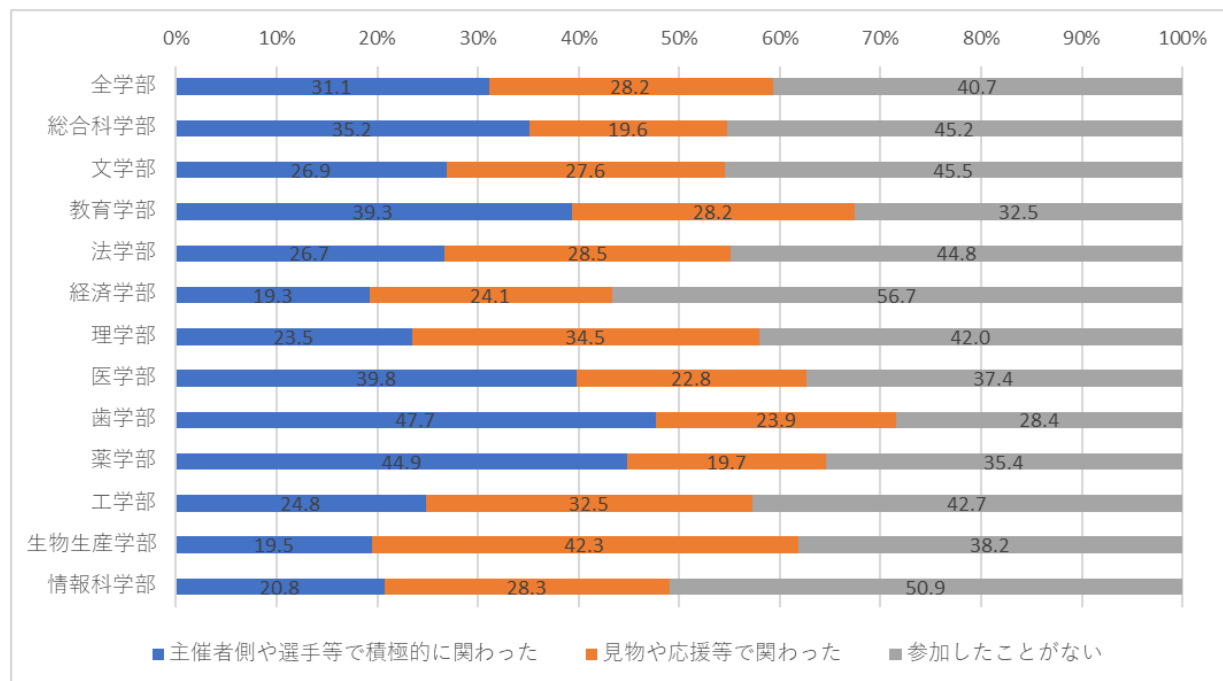
全体の64%は学内の何らかのクラブやサークル活動に参加しており、特にスポーツ系の活動への参加比率が高い。学部別では、医学部および歯学部において学内のクラブやサークル活動への参加割合が7割程度と高く、理学部では約半数となっている。



3 大学の行事への参加

設問3 大学祭、ゆかたまつり、フェニックスリレーマラソン、霞祭等の大学の行事に参加したことがありますか。

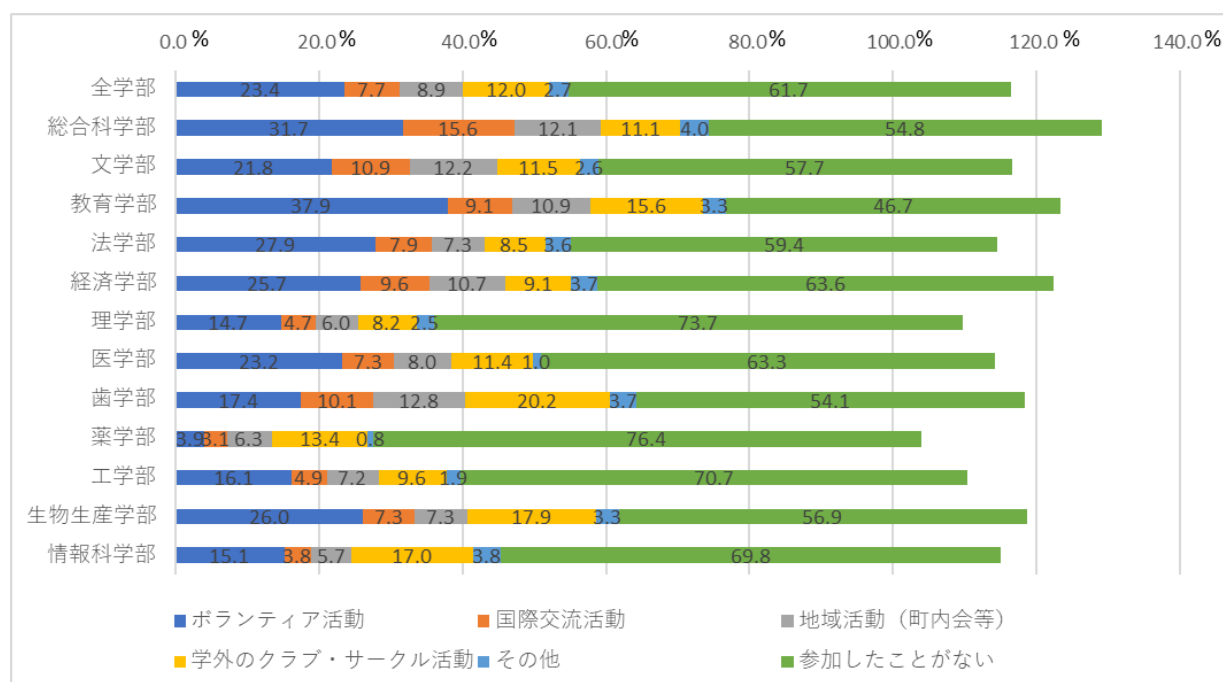
学部生全体の約6割は大学の行事に何らかの形で参加している。その一方、4割程度は参加経験がない。これまでの調査と比較して、参加経験のない学生の割合が高くなっているが、これは回答者に占める学部1年生の割合が高く、特に新型コロナウイルス感染症の影響により、参加機会などが減少したことも要因として考えられる。



4 ボランティアや地域活動への参加

設問4 学外のボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。（複数回答可）

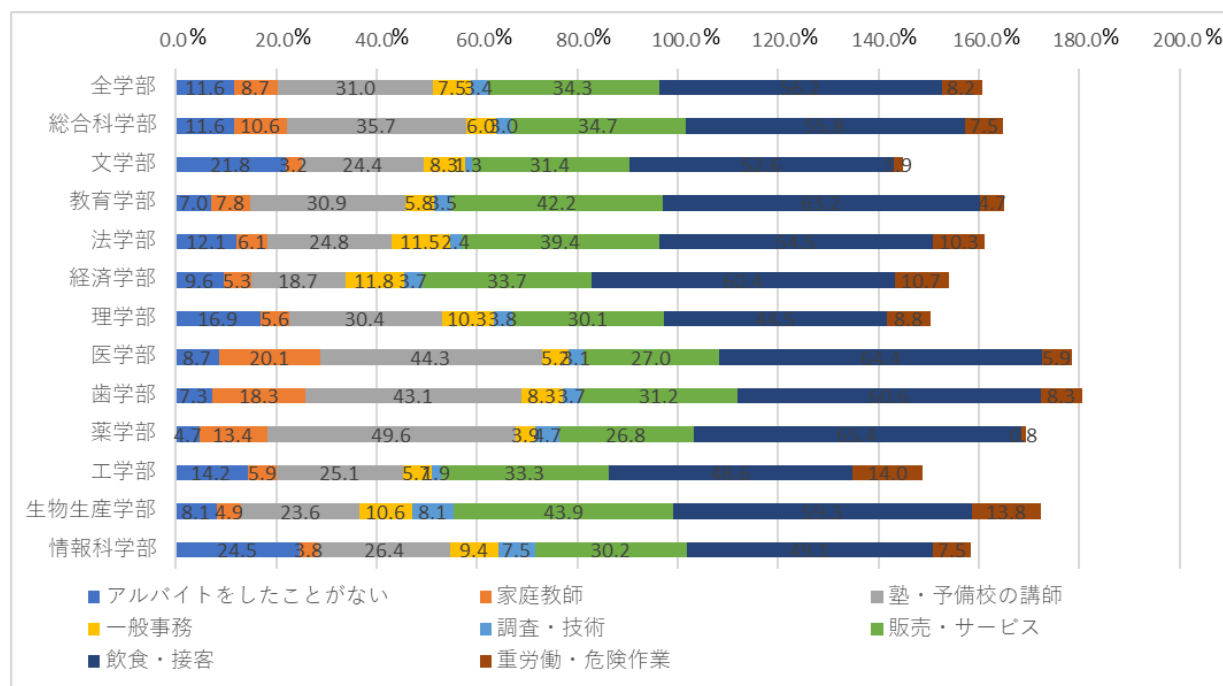
学部生全体の4割程度は、ボランティアや地域活動に参加した経験がある。その一方、参加経験のない学生は6割程度を占めており、これまでの調査と比べても、約1割前後増加していることから、前述と同様の理由により、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、活動機会が少なくなったことに起因する可能性も考えられる。



5 アルバイト

設問5 入学後何らかのアルバイトをしたことがありますか。(複数回答可)

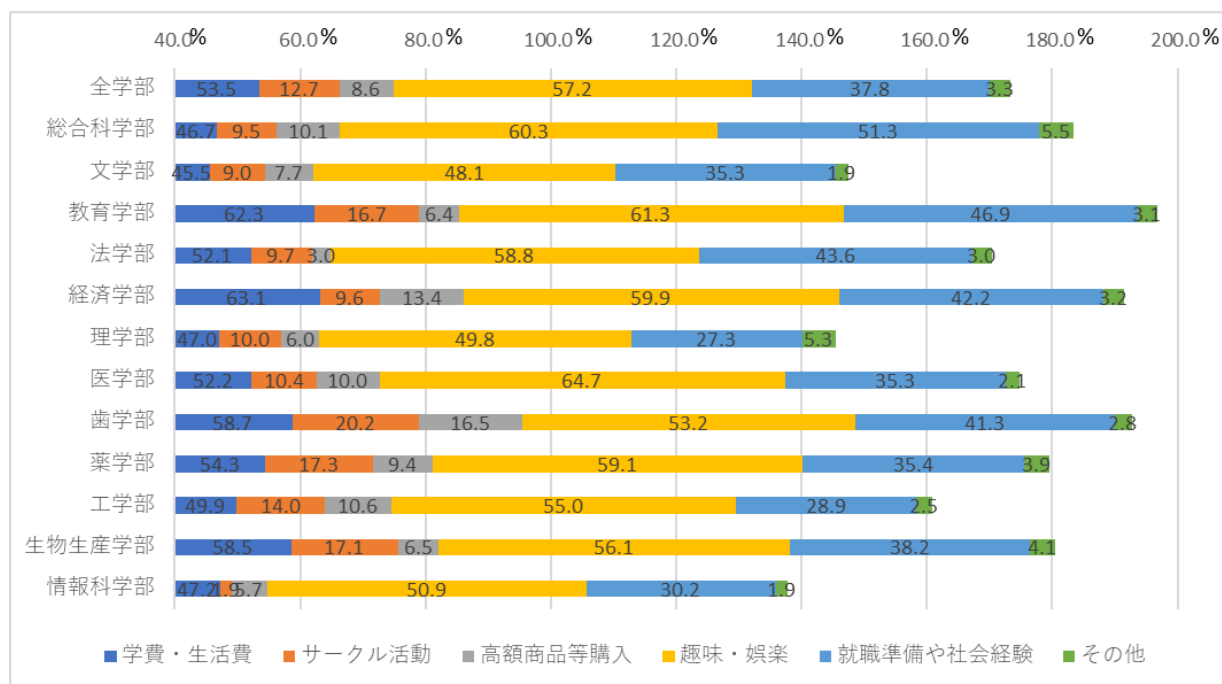
学部生全体の 9 割近くは、入学後に何らかのアルバイトをした経験がある。主なアルバイトとしては、「飲食・接客」、「販売・サービス」、「塾・予備校の講師」を経験している学生が多い。一方で、過去数年間の推移を見る限り、アルバイトを経験していない学生の割合は減少傾向にある。



設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。(複数回答可)

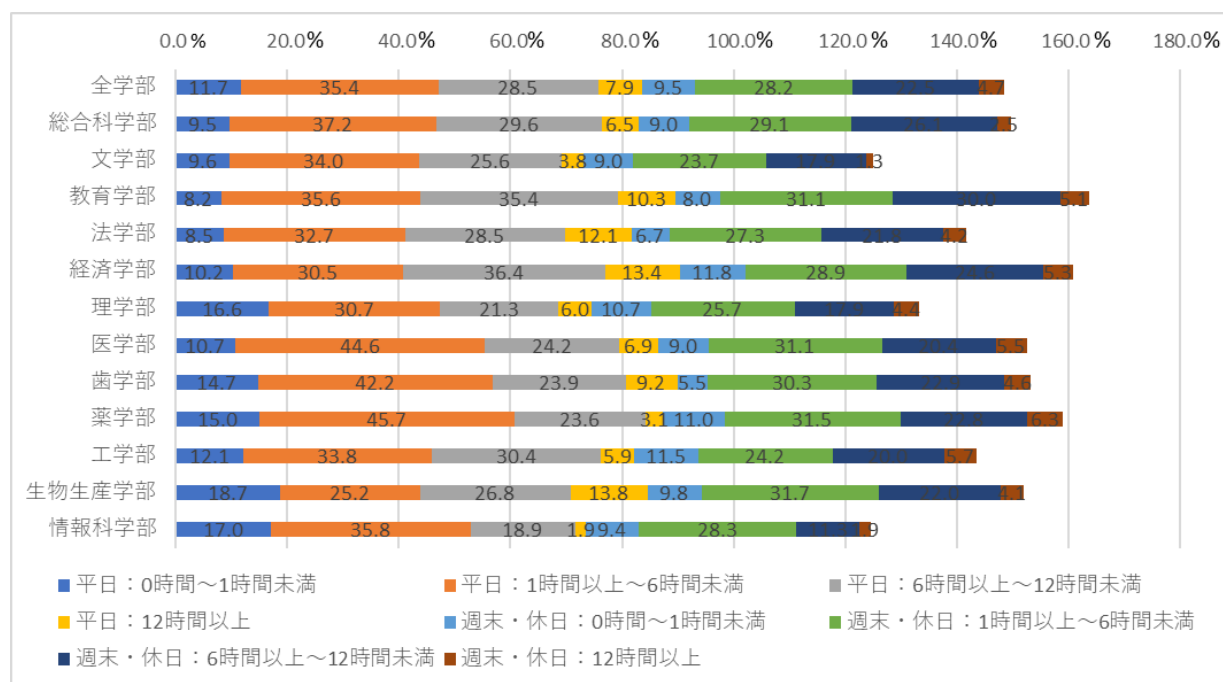
アルバイトの主な目的として、「学費・生活費」のためと回答した学生の割合は半数強であり、ここ数年では微増傾向にある。一方で、「学費・生活費」以上に、「趣味・娯楽」のために理由を挙げる学生の割合は57%と最も高く、過去数年間に亘り、増加傾向が見られている。

※ グラフの目盛りの最小値は40%



設問7 一週間あたりアルバイトを何時間していますか。「平日」及び「週末・休日」それぞれの中から一つずつ選択してください。

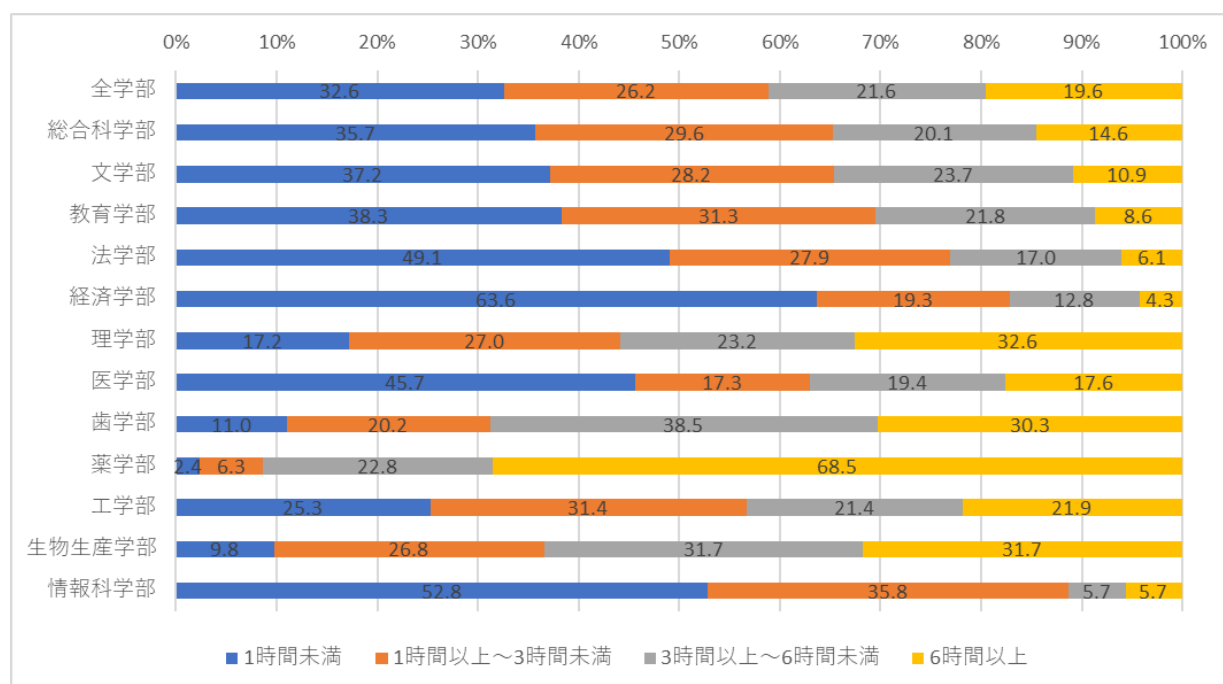
アルバイトに充てている時間は、平日および週末・休日ともに、「1時間以上～6時間未満」がそれぞれ35%および28%と最も多く、次いで「6時間以上～12時間未満」となっている。



6 大学構内での滞在時間・場所について

設問8 一日に大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。

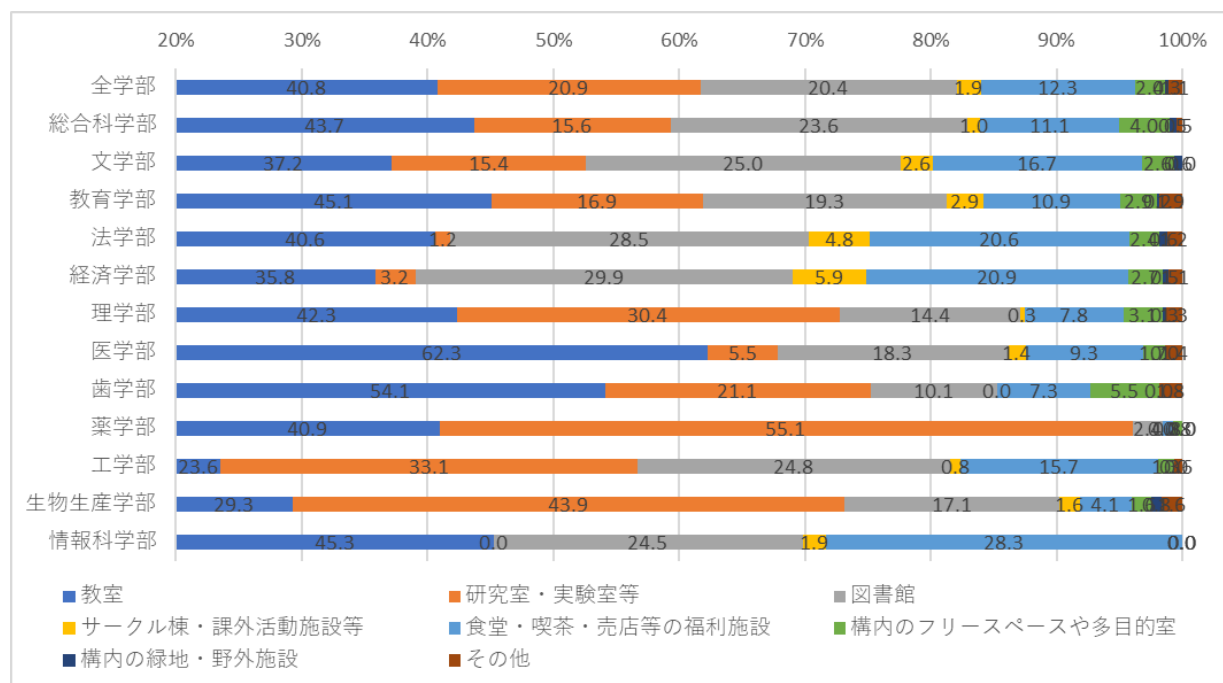
1時間未満の大学構内の滞在は学部別にみると文系学部の経済学部、法学部、教育学部、文学部と、情報科学部、医学部や総合科学部で、他の理系学部より多い傾向があった。全体では6時間以上構内に滞在している割合は約20%で、平成30年度の前回調査の53%より大きく下回っている。1時間未満の滞在者は、前回調査では1.7%であったのに対して、今回は33%にのぼり、新型コロナウイルス感染症対策のための入構制限や対面授業が少なかったことの影響がうかがえる。



設問9 大学構内の滞在時間のうち、1番多く滞在している場所はどこですか。

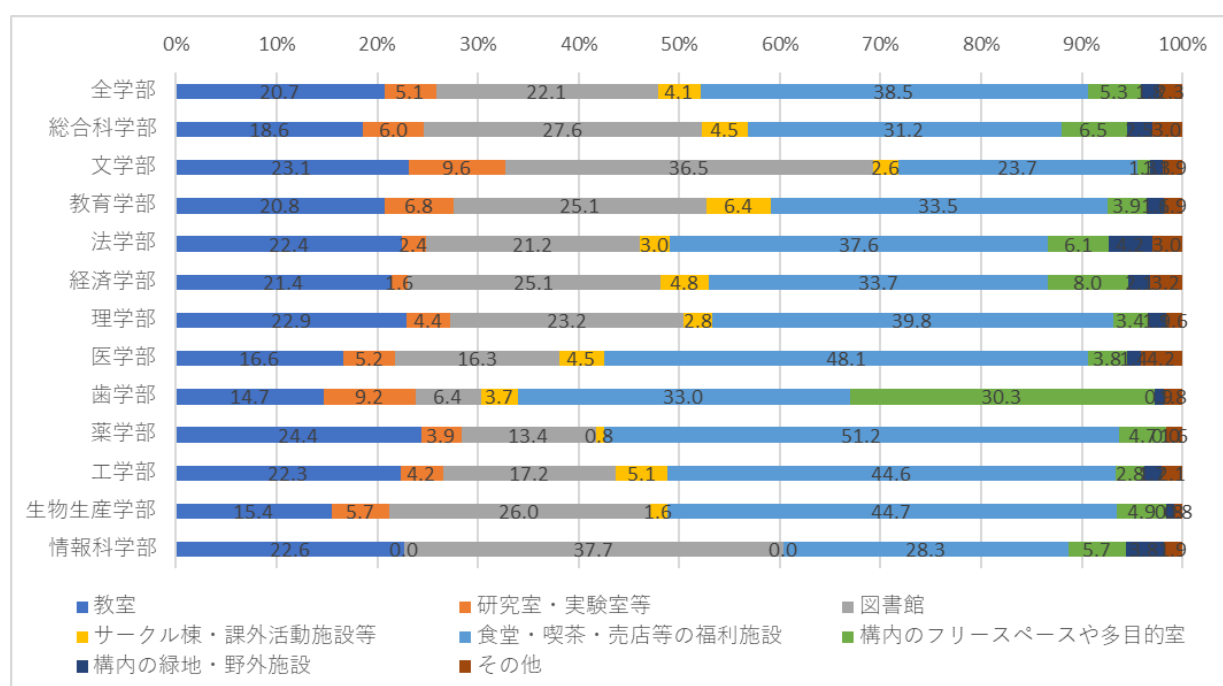
滞在時間が長い場所は、全学部では教室が最も多く40.8%であったが、平成30年度調査の60%より少なかった。教室で行う授業時間が少なかったことの影響とみられる。研究室・実験室等と図書館は20%程度であった。学部別にみると、薬学部、工学部、生物生産学部では研究室・実験室等での滞在が多く、前回調査と同じ傾向であった。

※ グラフの目盛りの最小値は20%



設問10 大学構内の滞在時間のうち、2番目に多く滞在している場所はどこですか。

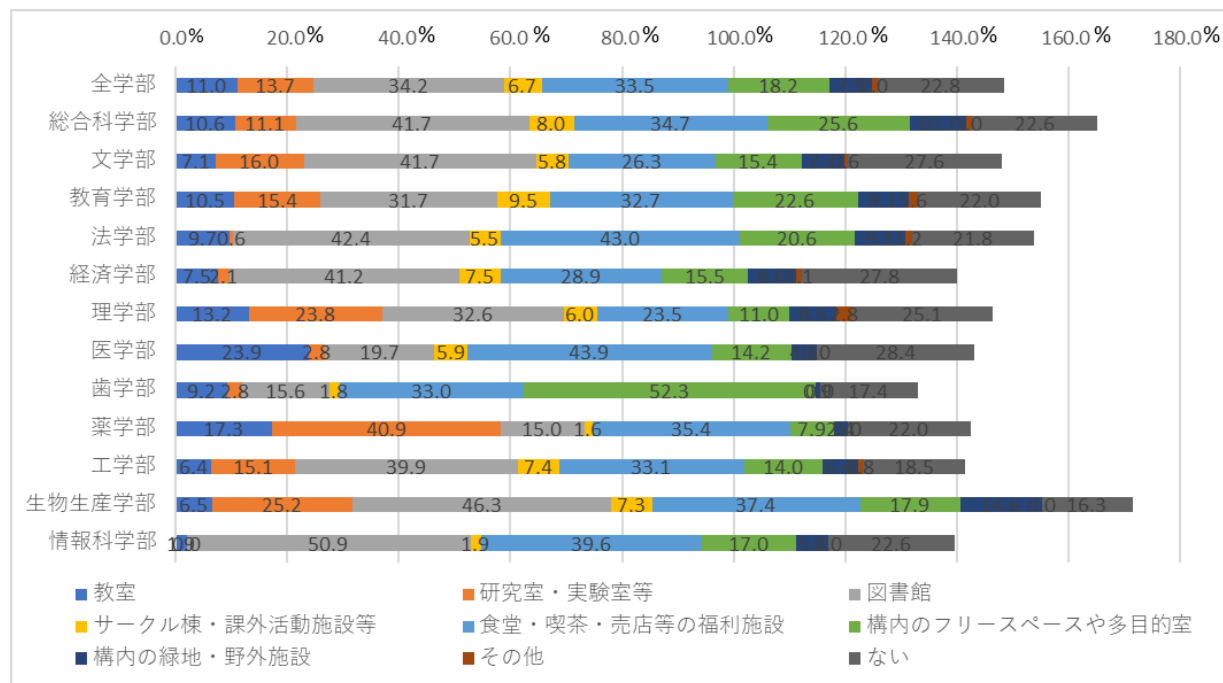
2番目に多く滞在している場所は、「食堂・喫茶・売店等の福利施設」が多く(38.5%), これに次いで図書館と教室も20%程度で多かった。薬学部では「構内のフリースペースや多目的室」も30%程度で多かった。「サークル棟・課外活動施設等」はこれまで13%程度であったが、今回は課外活動の休止が主な理由と思われるが、4%であった。コロナ禍において、登校した学生が「3蜜」を避けて滞在するためには、教室以外にも多様なスペースが必要である。



7 大学構内でくつろいで過ごせる場所

設問 11 大学内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

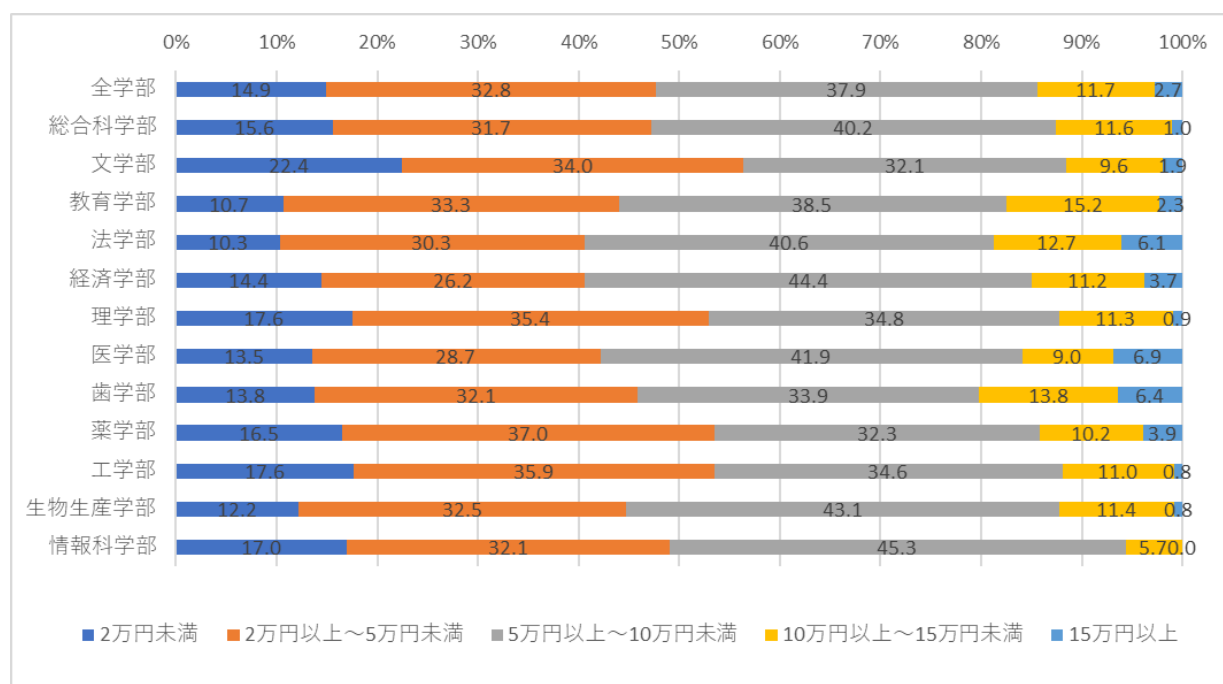
大学内でくつろいで過ごせる場所は、図書館と食堂・喫茶・売店等の福利施設が34%程度で多かった。情報科学部、生物生産学部、総合科学部、文学部、経済学部、工学部では図書館という回答が最も多かった。くつろいで過ごせる場所は「ない」という回答が全学部であり、合計では22%もあった。学生にはくつろぎの場所も確保すべきで、施設利用面での改善が必要と思われる。



8 1ヶ月の生計費（収入・支出）

設問 12 1ヶ月の収入はいくらですか。

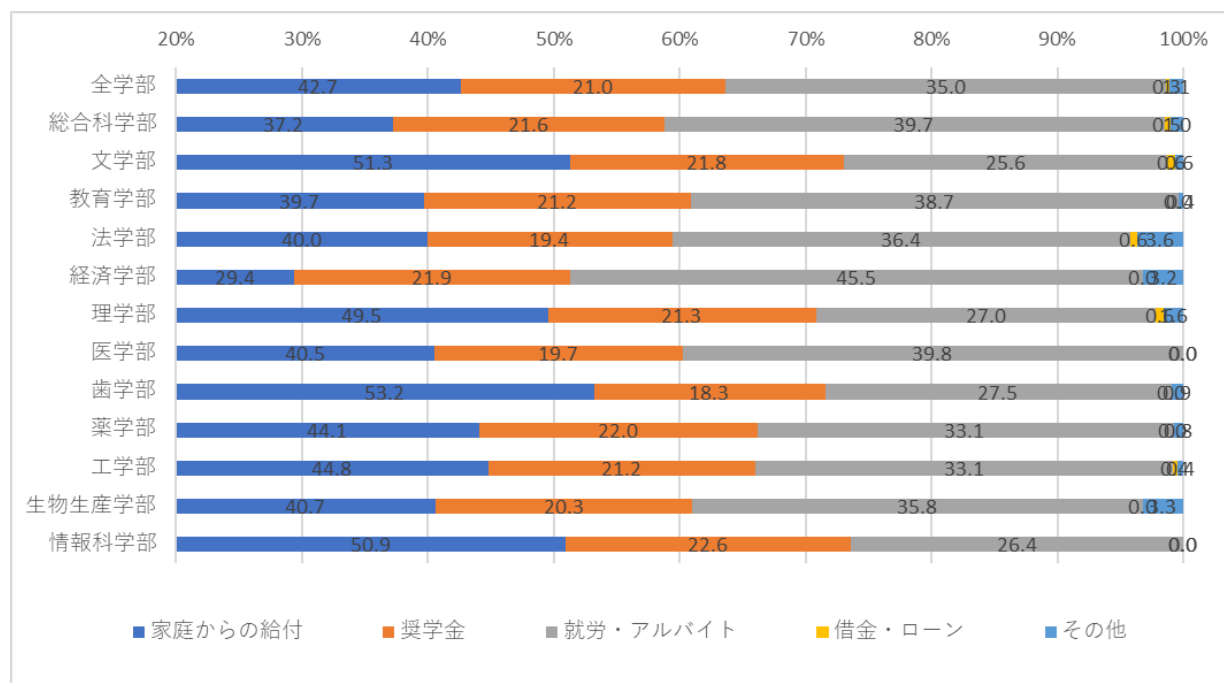
1カ月の収入は、5-10万円が38%、2-5万円が33%で多く、これに次いで、2万円未満が15%、10-15万円が12%であった。この傾向は、全部の学部でほぼ共通的にみられるので、東広島市と広島市のキャンパス所在地で違いは少ないと思われる。また、平成30年度調査でも、ほぼ同様の結果が示されているので、新型コロナウイルス感染症拡大が収入額に及ぼす影響はこれまでのところ少なかったようである。



設問 13 1ヶ月の収入のうち、1番多い収入は、次のどれですか。

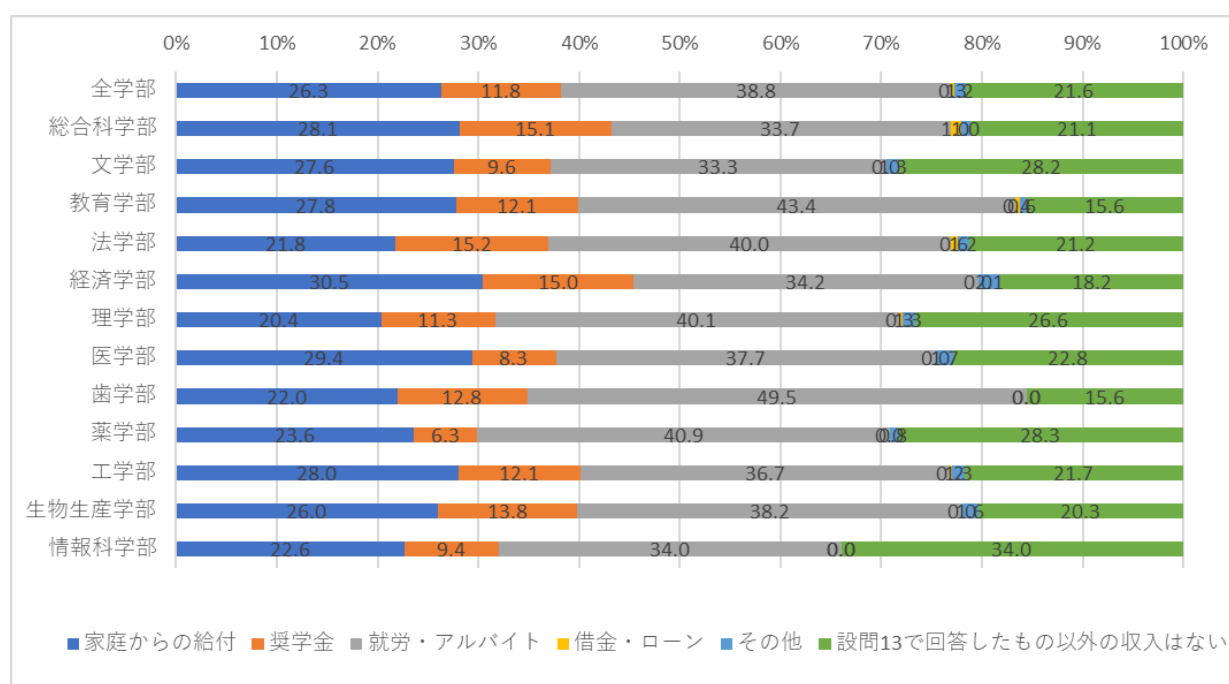
学部によって若干の違いはあるが、一番多い収入は「家庭からの給付」で43%，ついで「就労・アルバイト」の35%，「奨学金」の21%であった。経済学部では「就労・アルバイト」が最も多い。平成30年度調査と比較すると、「家庭からの給付」と「就労・アルバイト」については、順位と割合のいずれも、ほぼ同じ傾向であった。しかし、平成30年度調査での「奨学金」の割合は17.5%であったので、今回はやや増えているようである。

※ グラフの目盛りの最小値は20%



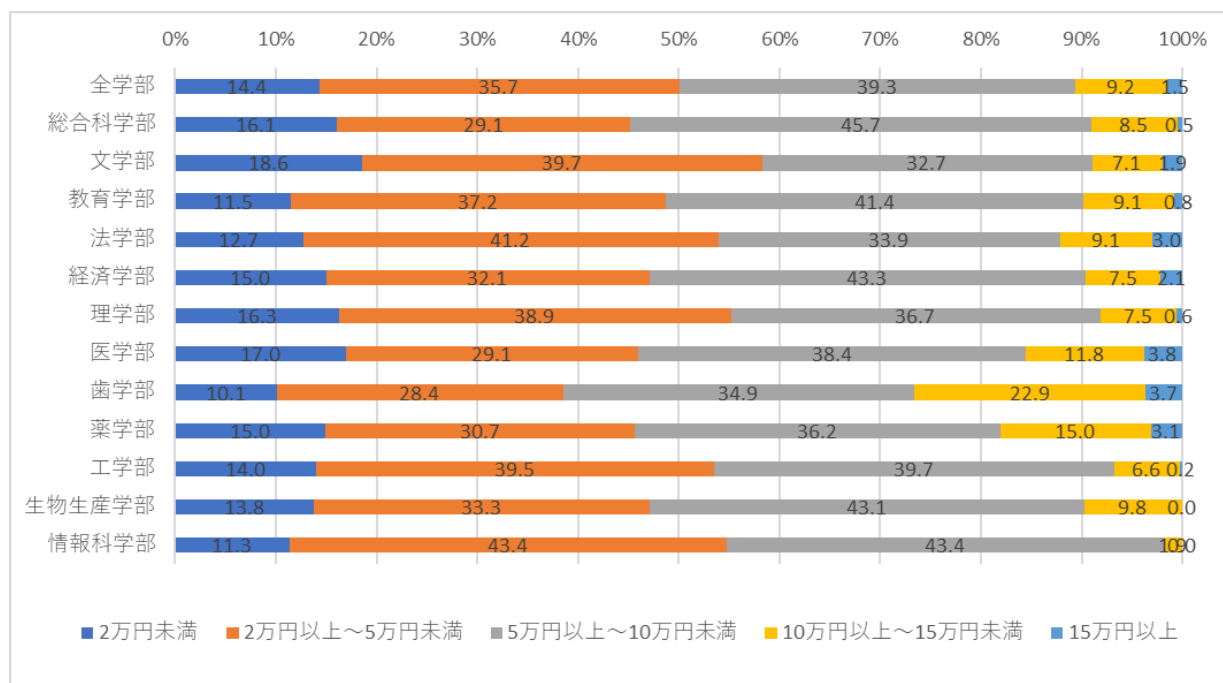
設問 14 1ヶ月の収入のうち、2番目に多い収入は、次のどれですか。

2番目に多い収入は、「就労・アルバイト」の39%が最も多く、「家庭からの給付」が26%、「奨学金」が12%と続いた。この傾向と割合は平成30年度評価とほぼ同じである。設問13の1番多い収入の回答と合わせて、「就労・アルバイト」は学生の重要な収入源と言える。奨学金を受けている割合が増加しているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等によりアルバイトの機会が減少した学生には、経済支援を行って学修の継続を支援する必要がある。



設問 15 1ヶ月の支出はいくらですか。

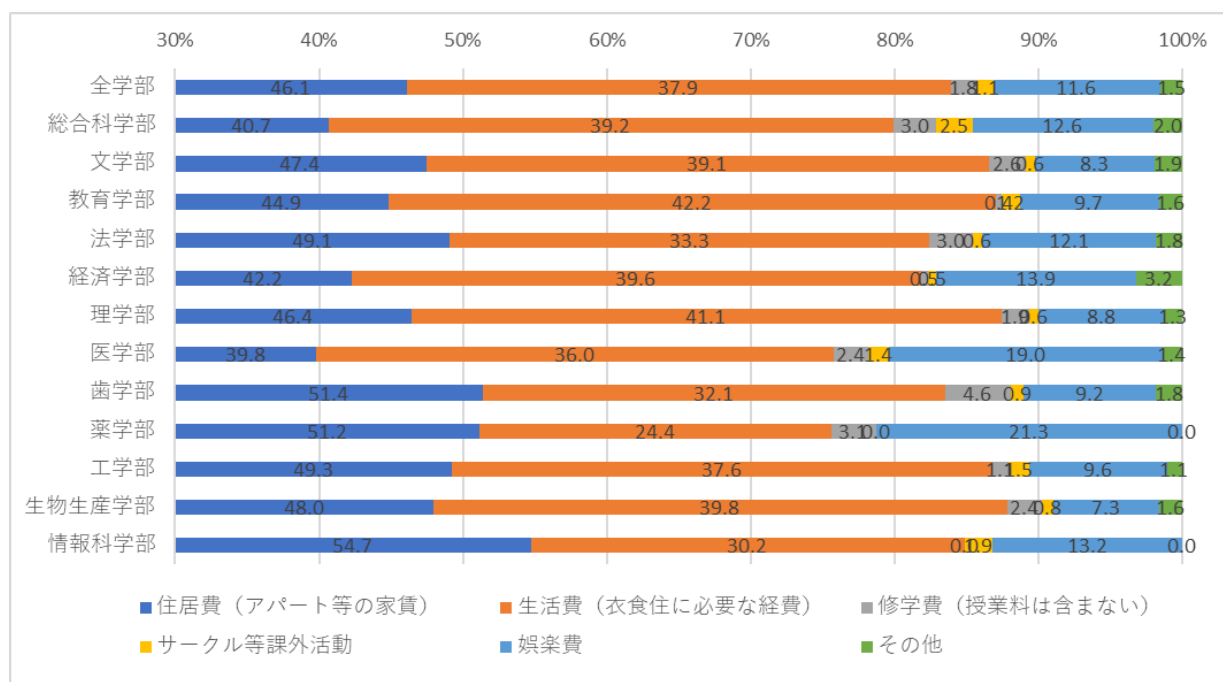
1ヶ月の支出は、全学では2-5万円が36%、5-10万円が40%で多く、2万円未満は14%であった。この傾向は、割合には若干の違いはあるものの、理科系と文科系を問わず、全部の学部でほぼ共通していた。また、平成30年度調査でもほぼ同じ結果となっているので、新型コロナウイルス感染症拡大状況の下でも、支出額はあまり変動しなかったようである。



設問 16 1ヶ月の支出のうち、1番多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

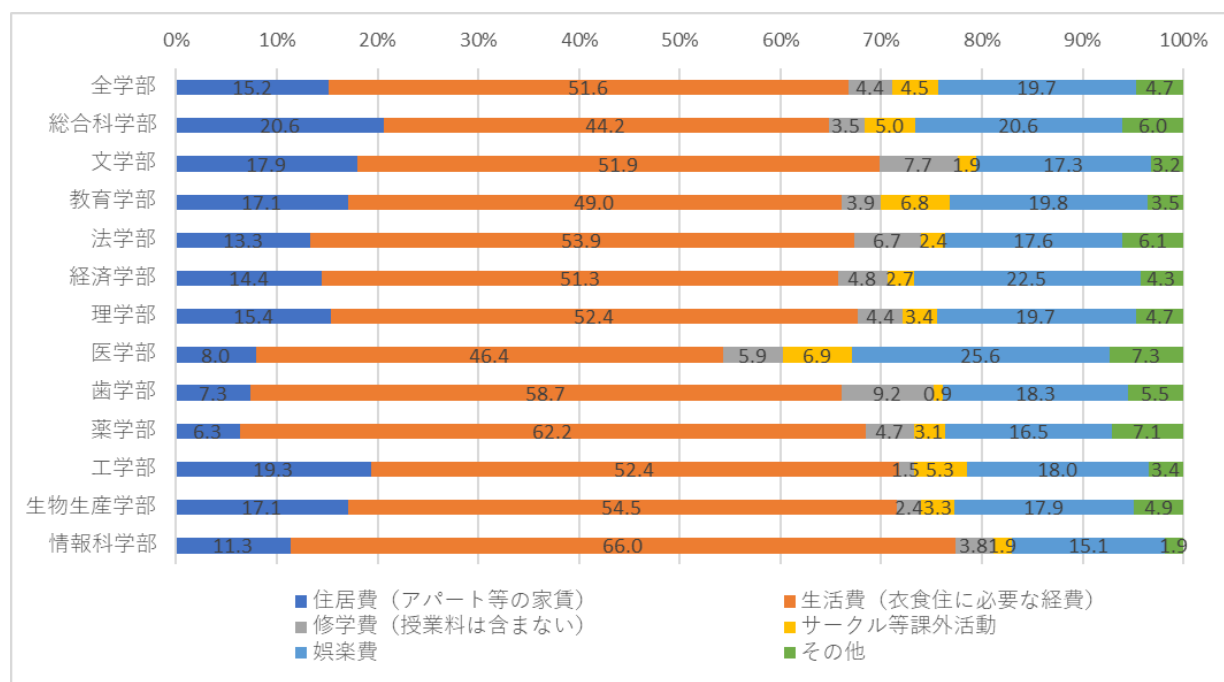
全学部の結果で、一番多く必要とする経費は、住居費の46%と生活費（衣食住）の38%で、この傾向は各学部でほぼ同様であった。課外活動を制限されていた期間があるためかサークル等課外活動費は少なかったが、娯楽費は各学部とも10%前後であったので、一定程度の娯楽のための経済的余裕はあるものと思われるし、学生生活においては娯楽もされていると思われる。一方、修学費は全学において1.8%で、これは平成30年度調査と同水準であるが、娯楽費よりかなり低い理由は不明である。

※ グラフの目盛りの最小値は30%



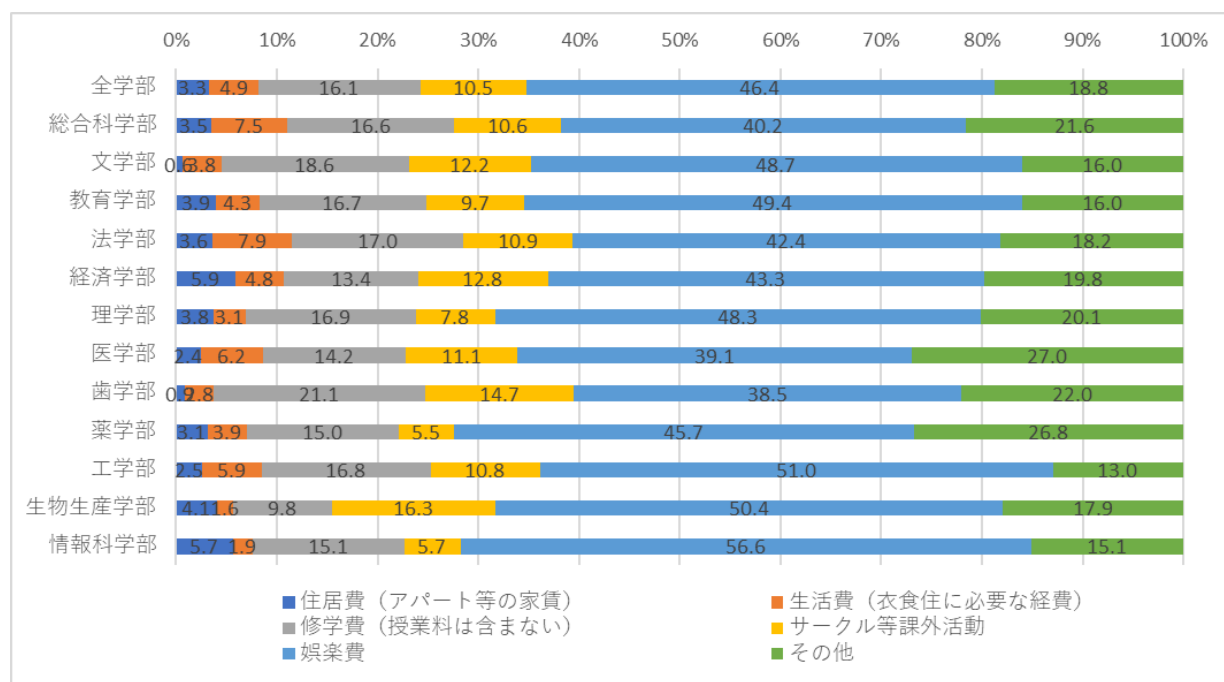
設問17 1ヶ月の支出のうち、2番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

2番目に多く必要とする経費は、全学部の結果で、生活費（衣食住）が52%で最も多く、娯楽費の20%と住居費の15%がこれに続いていた。この傾向は各学部でほぼ共通していた。修学費は4.4%で、設問16の一番多く支出するという回答（1.8%）よりは、やや多いものの、やはり娯楽費よりかなり低い。



設問18 1ヶ月の支出のうち、3番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

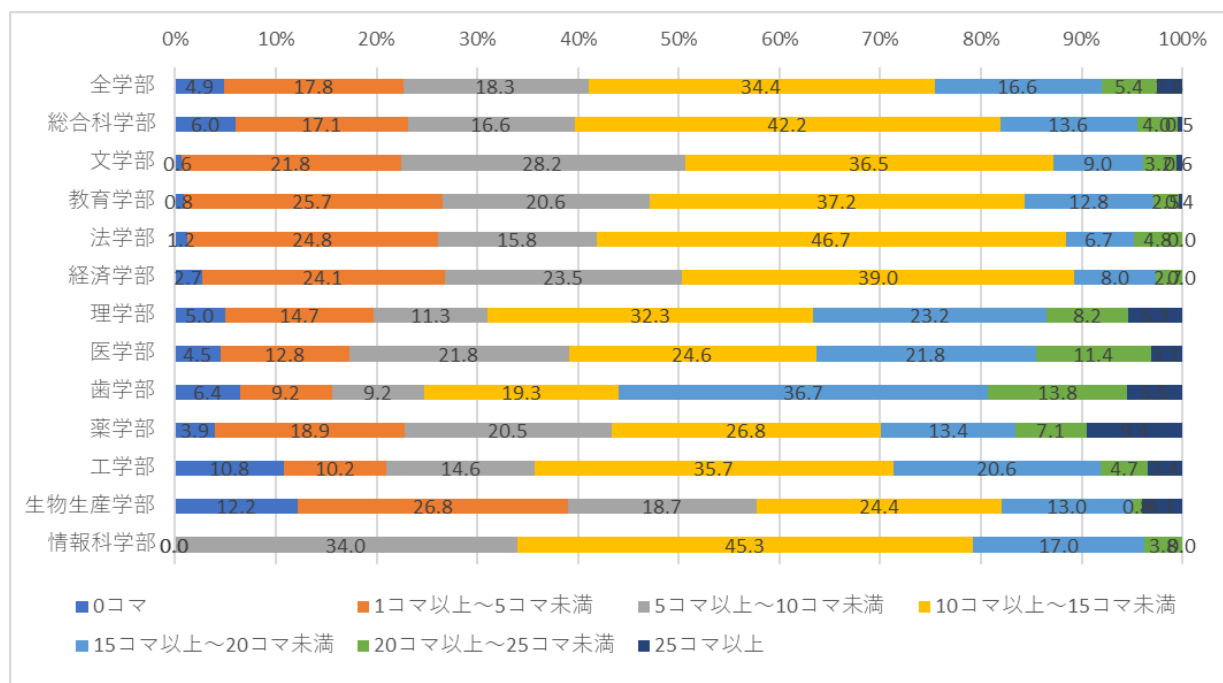
住居費と生活費は1番および2番目に多く必要な経費とする回答が多かったため、3番目に多く必要とする割合は少なかった。一方で、娯楽費は46%であったが、修学費は16%にとどまり、サークル活動等課外活動も10%であった。娯楽費は生活の基礎に必要な「住居費」と「生活費」の次に多い支出とされているようである。



9 1週間の学習時間

設問 19 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）への出席にあてていますか。

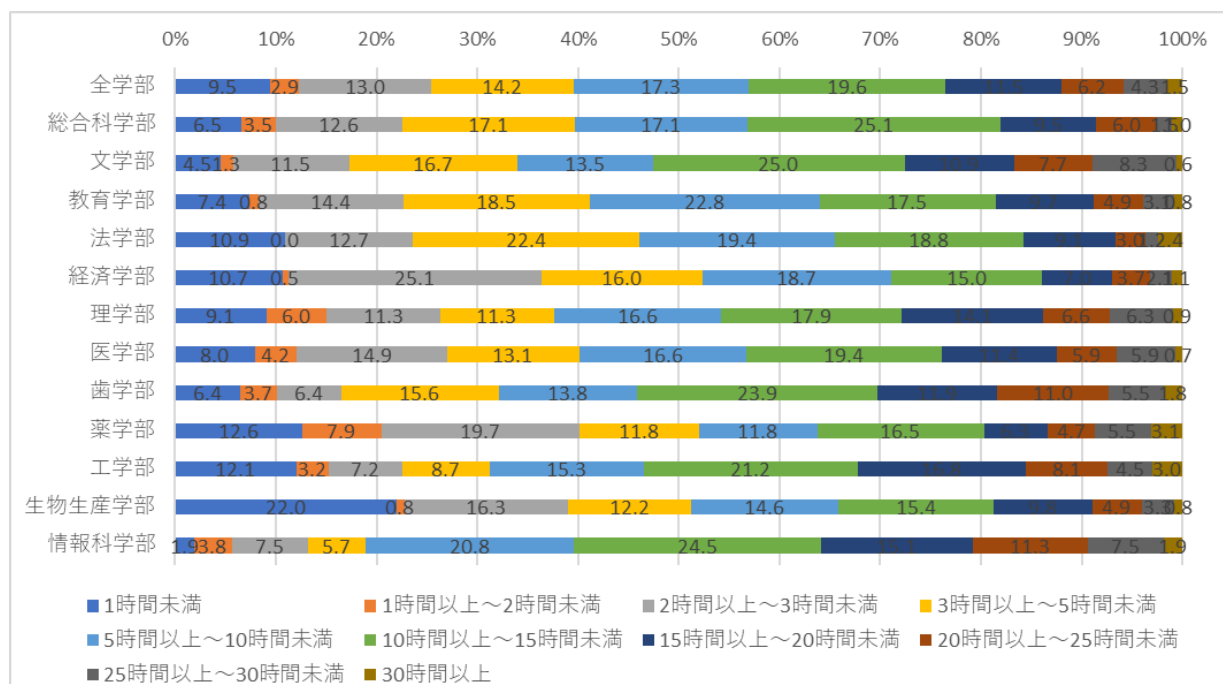
多くの学部では、ボリュームゾーンが「10 コマ以上～15 コマ未満」（黄色部分）となっていることがわかる。歯学部では「15 コマ以上～20 コマ未満」を授業の出席に充てている学生が多いことがわかる。



設問 20 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の課題、準備・復習にあてていますか。

本質問項目は、いわゆる「授業外学習時間」の一部を問うような質問となっている。多くの学部の学生において、8割前後の学生が、2時間以上の時間が授業に関連した課題や準備、復習に充てていることが解る。

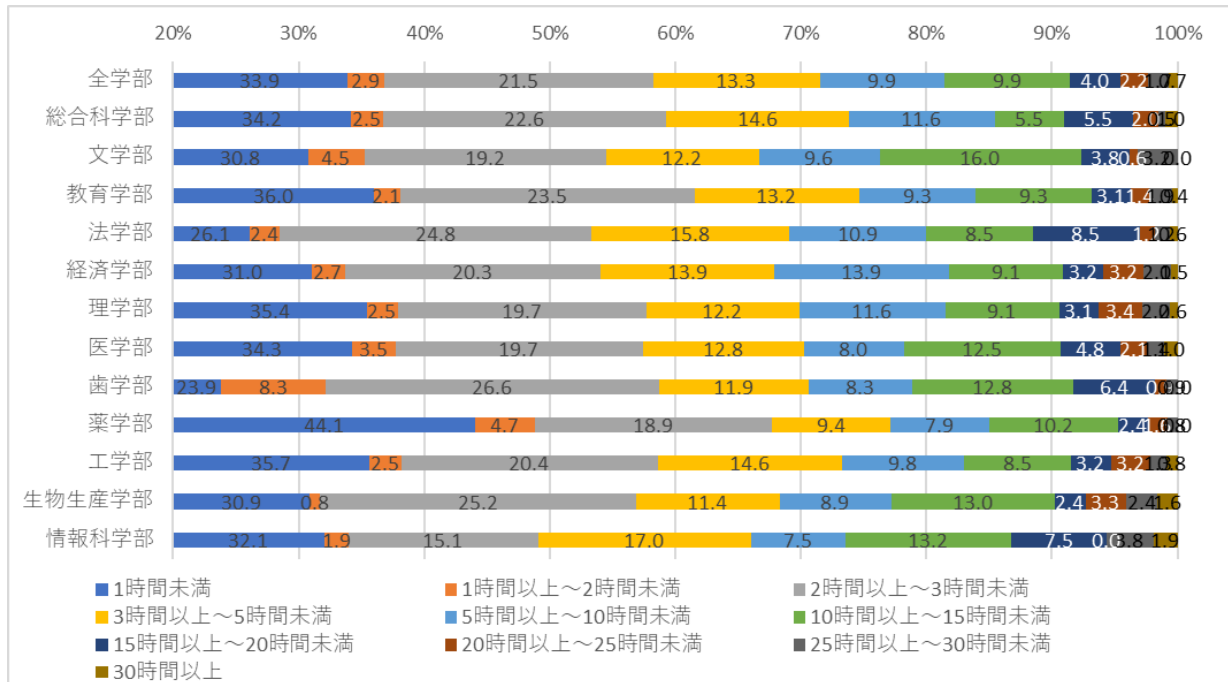
このような授業外学習時間が、「1時間未満」と答えた学生が2割を超えているのが、生物生産学部である点は留意をしておく必要があり、この数値が、どのような要因に拠るのかを検討する必要がある。



設問 21 授業期間中、平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。

本質問項目は、上記の設問 20 と同様に、いわゆる「授業外学習時間」の一部を問うような質問となっている。薬学部を除くすべての学部において、6 割前後の学生は、こうした自主的な学習に 2 時間以上の時間を確保していることがわかる。薬学の学生が他学部比としてこうした自主的な学習時間の割り当てがやや少ない点は、慎重に考察する必要があるだろう。資格試験との関係から、自主勉強に時間を割く必要が無い／割くゆとりが無いのかかもしれないなど、各専門分野固有の問題の存在がうかがわれる。

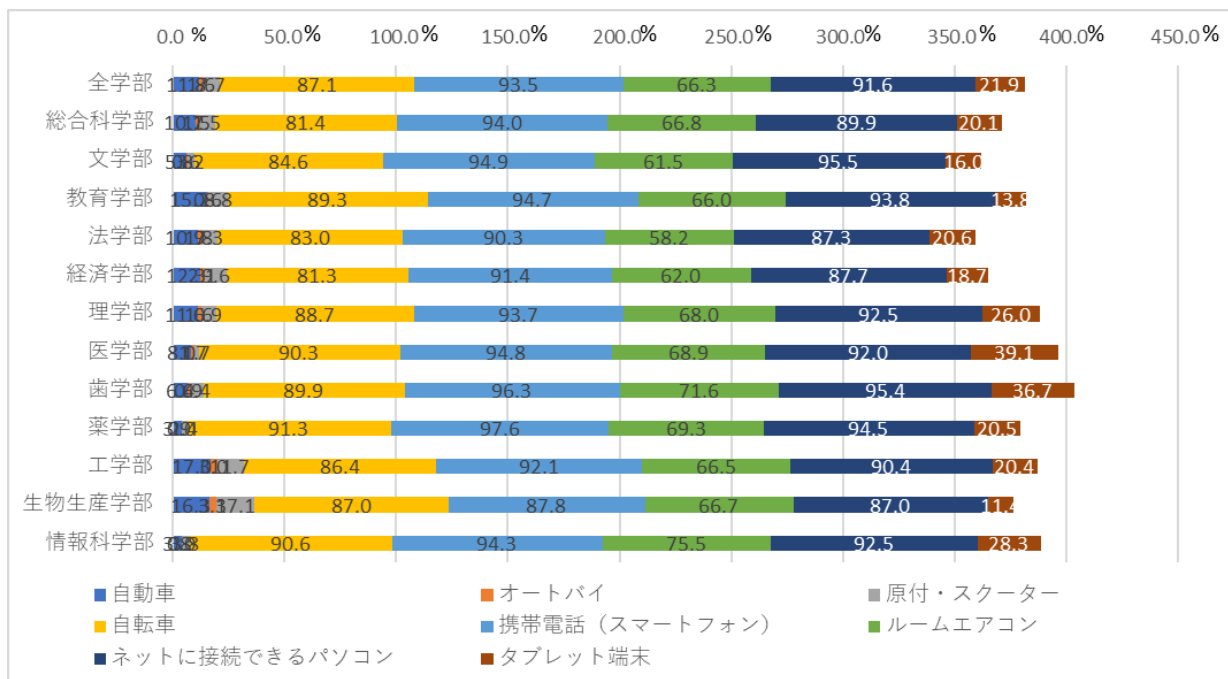
※ グラフの目盛りの最小値は 20%



10 所有もしくは占有している物

設問 22 所有もしくは専用物がありますか。(複数回答可)

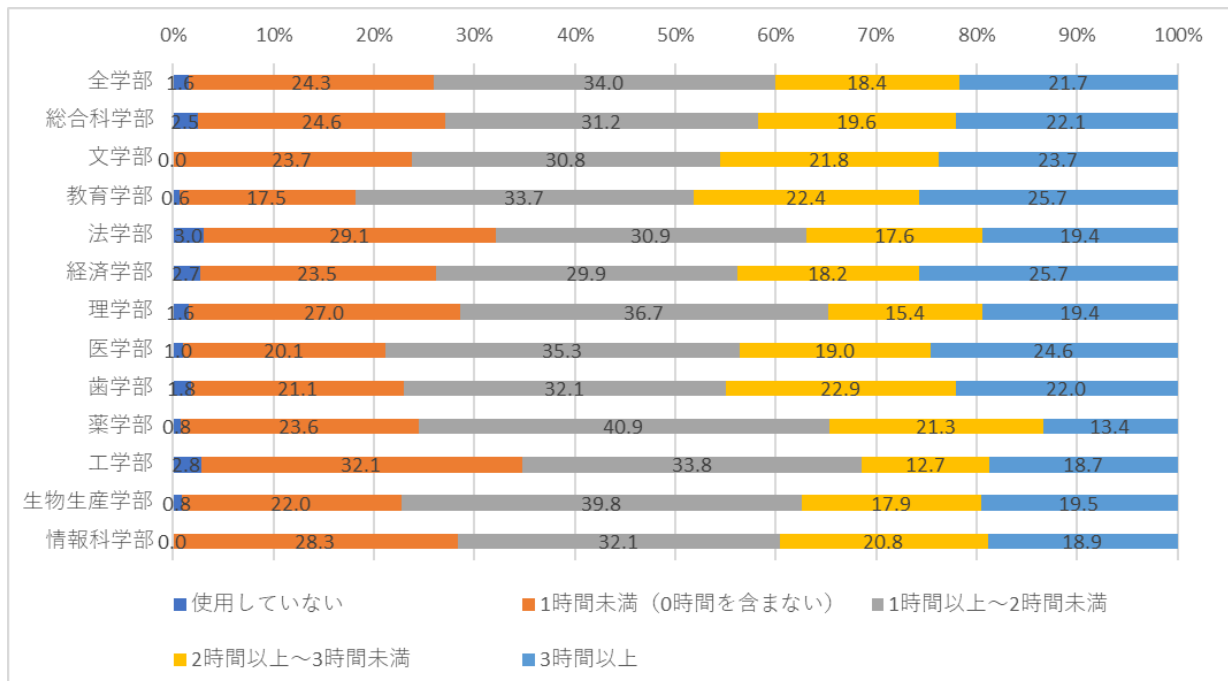
移動手段として所有している専用物は自転車が 87%で最も多く、自動車や原付・スクーターは 10%前後であった。このことは全学部でほぼ共通しており、自転車利用者のために駐輪場が確保できているかを点検していく必要がある。携帯電話（スマートフォン）は 90%以上、ネットに接続できるパソコンは 90%前後が保有し、タブレット端末も 20%以上が保有しているので、保有率は高いと思われる。しかし、本学がオンライン教育を導入していくのであれば、一部でも保有していない学生がいれば、貸し出し等で対応していく必要がある。



1 1 Social Network Service の使用状況について

設問 23 Facebook・Instagram・LINE・Twitter 等の SNS (Social Network Service) を 1 日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を「使用していない」学生は 2%以下、1 時間未満は 24%であり、1-2 時間は 34%、2-3 時間は 18%、3 時間以上は 22%であった。1 時間以上の学生は、今回の調査では約 75%であったが、平成 30 年度調査では 67.2%であった。今回はコロナ禍でのオンライン授業等により、自宅で過ごす時間が多く、友人とコンタクトするのに必要だったためか、SNS に費やす時間が多いとともに、前回よりかなり増えている。



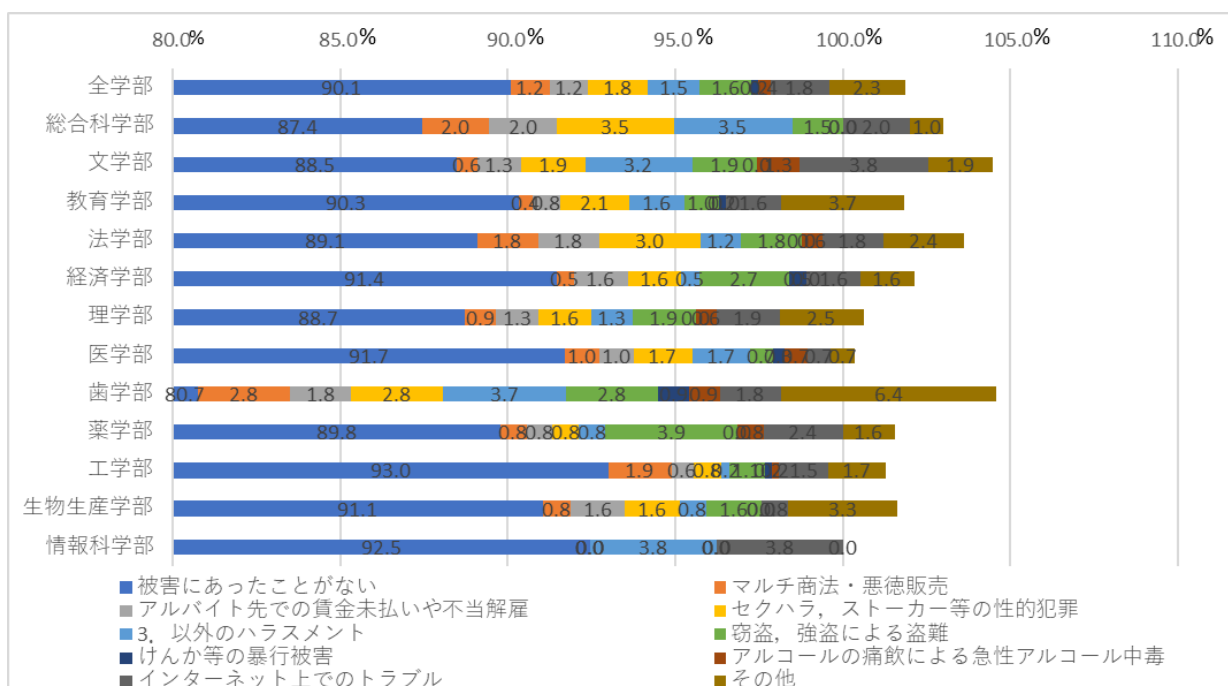
1 2 犯罪やトラブルなどの被害経験

(複数回答可)

設問 24 学生生活において、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがありますか。

何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがある学生は 9.9%で、平成 30 年度調査の 12.8%や平成 28 年度の 14.9%よりやや少ない。「セクハラ、ストーカ等」の性的犯罪の 1.8%、「インターネット上のトラブル」の 1.8%、「窃盗、強盗による盗難」の 1.6%、「マルチ商法」や「アルバイト先での賃金未払いや不当解雇」の 1.2%が見られる。

※ グラフの目盛りの最小値は 80%

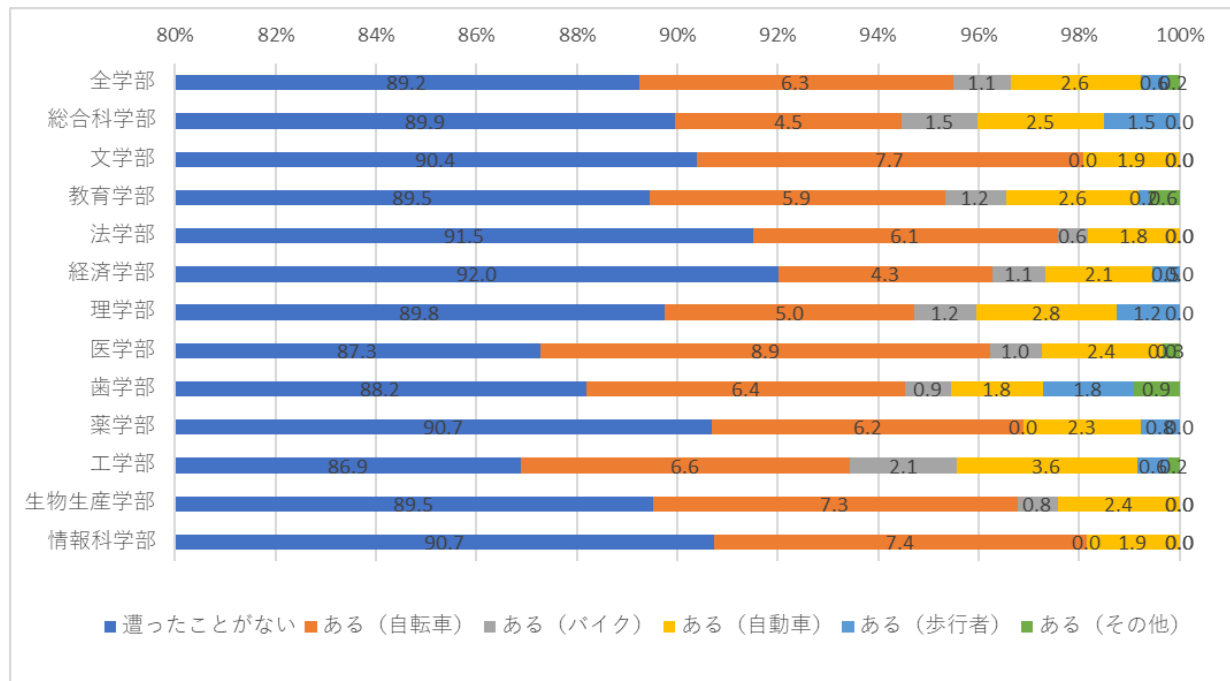


1 3 交通事故の経験

設問 25 在学中交通事故に遭ったことがありますか。(複数回答可)

全学部合計では、在学中交通事故遭遇の割合は約 11%であり、その約半数の 6.3%が自転車事故であった。平成 30 年度調査では交通事故遭遇割合は約 13%で、自転車事故は 7.3%であったので、今回はこれより減少している。しかし、バイクと自動車による事故にも 1.1%と 2.6%が遭遇しているので引き続き交通安全の呼びかけが必要である。

※ グラフの目盛りの最小値は 80%

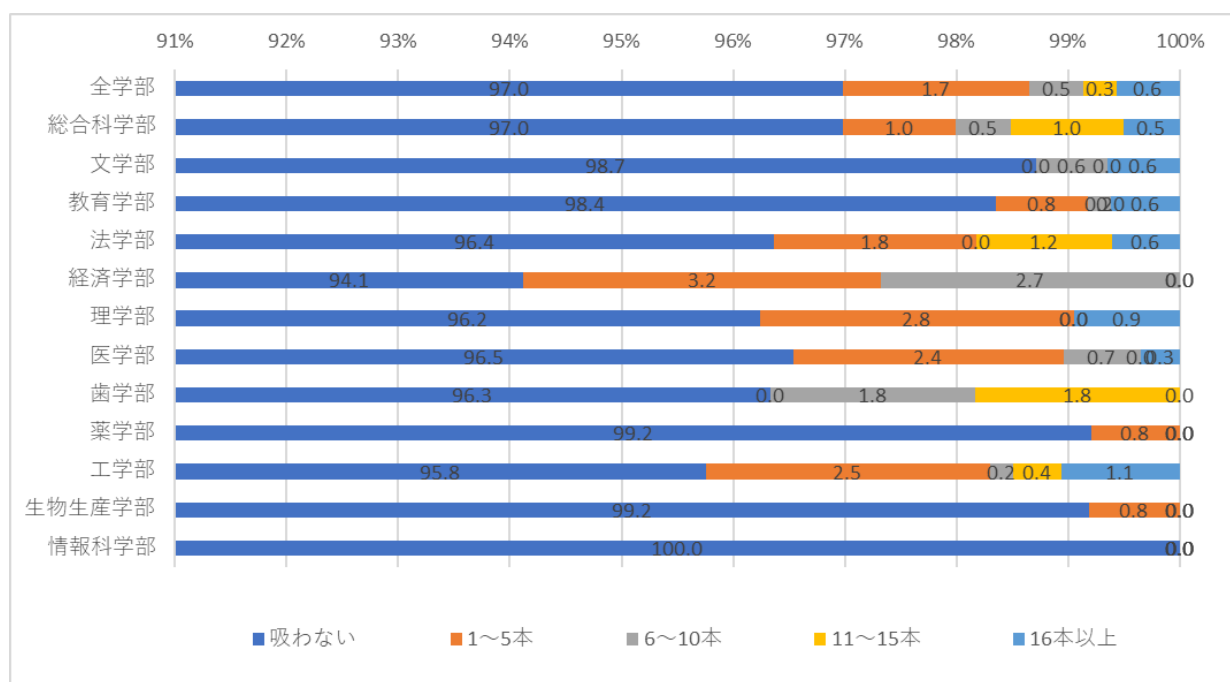


1 4 喫煙及び飲酒の習慣

設問 26 喫煙の習慣がありますか。1 日に吸う本数をお答えください。

全体として喫煙している者の割合は 3.0%であった。これまでの調査から喫煙習慣のある者の割合は、7.0%（平成 20 年度）、5.9%（平成 22 年度）と減少傾向にあり、平成 24 年度からは 6 年連続 3%台で推移していた。前回（平成 30 年度）4.4%と若干増加に転じたが、今回再び 3%台となっている。

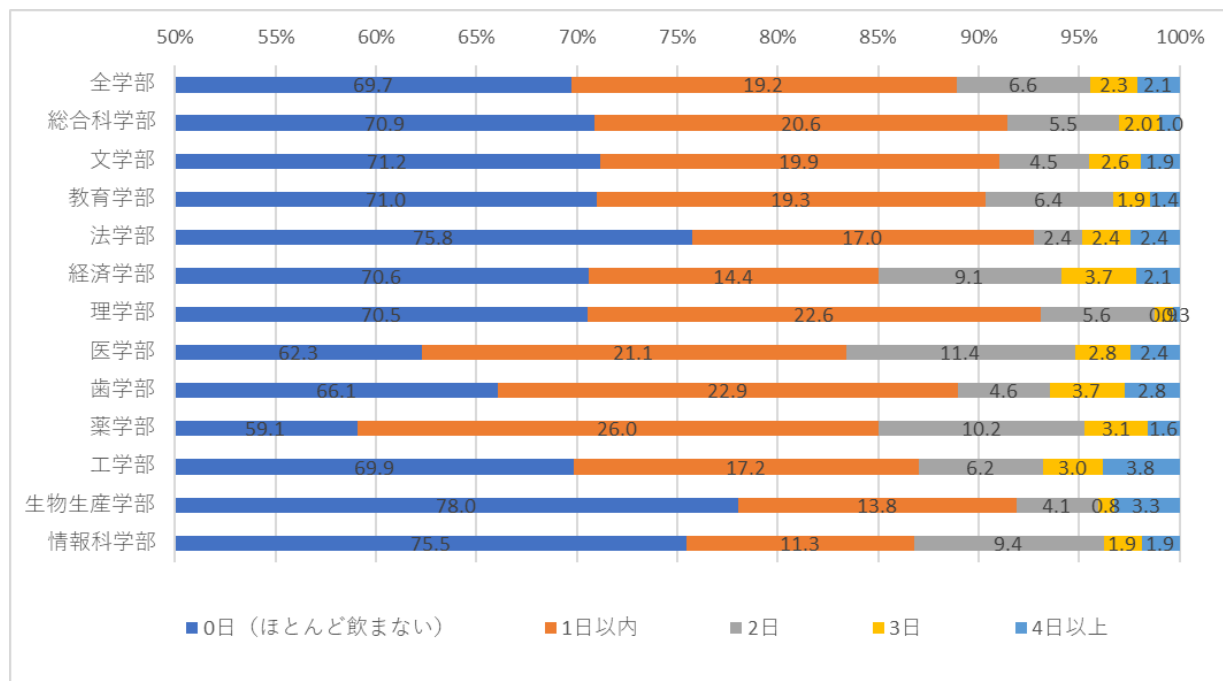
※ グラフの目盛りの最小値は 91%



設問 27 飲酒の習慣がありますか。1 週間に飲む日数でお答えください。

全体として、69.7%の学生はほとんど飲酒しないと回答しているが、前回と比較すると飲酒する者の割合は5.4%増加していた。週3日以上の上習慣飲酒者の割合は4.4%であり、前回（4.9%）とほぼ同様であった。

※ グラフの目盛りの最小値は50%

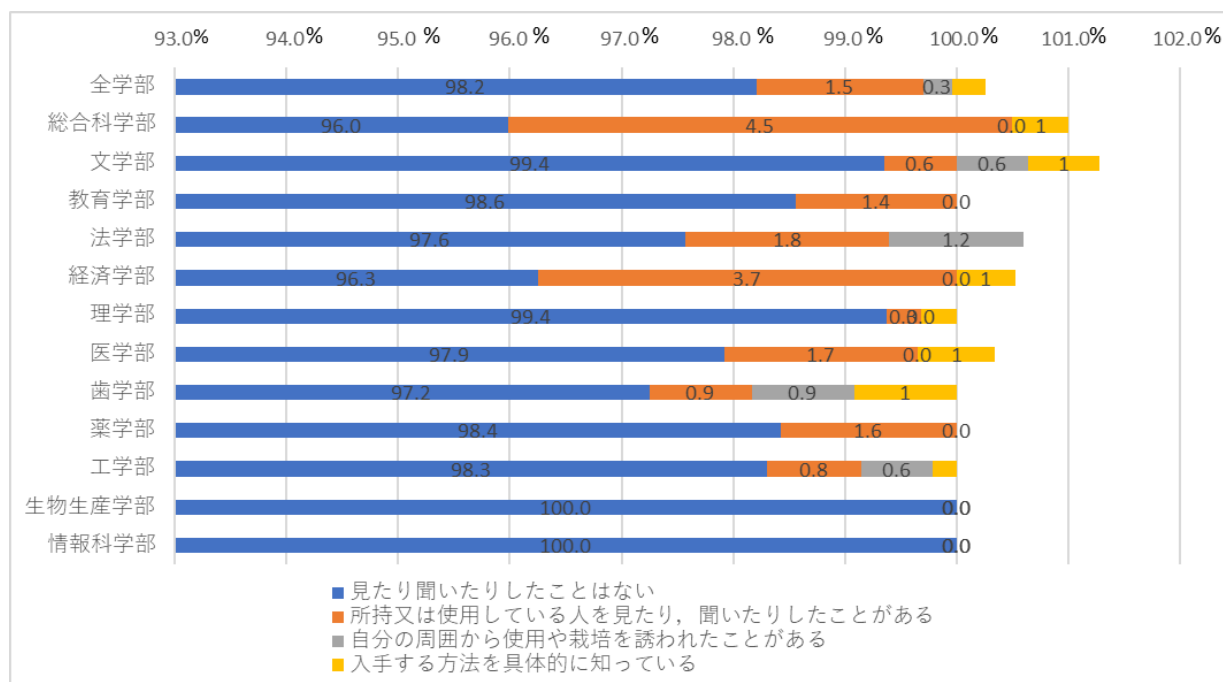


1 5 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について

設問 28 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について、該当するものを選択してください。（授業・研究目的のものは除く）（複数回答可）

全体として、98.2%が「見たり聞いたりしたことはない」と回答しており、前回（97.9%），前々回（98.1%）と同様の結果であった。しかしながら、「所持または使用している人を見たり，聞いたりしたことがある」が1.5%存在し、「自分の周囲から使用や栽培を誘われたことがある」という回答もあり，注意が必要である。

※ グラフの目盛りの最小値は93%

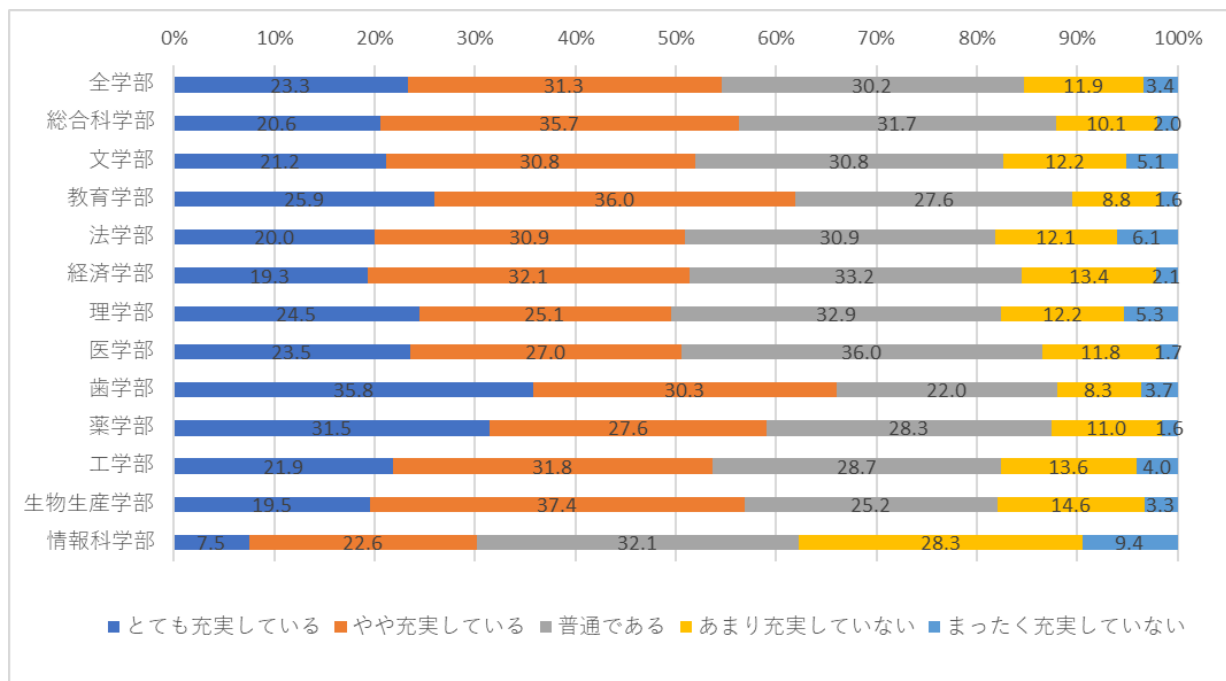


16 授業以外の学生生活の充実度

設問 29 授業以外の学生生活を充実して過ごしていますか。

多くの学部において、50%以上の学生が「とても」「やや」充実していると答えていることがわかる。「普通」を含めれば、その割合は80%以上となり、概ね学生は生活が充実しているようだ。

ただ、情報科学部の学生の充実感が低い点が気になる。この点の要因分析が必要だろう。

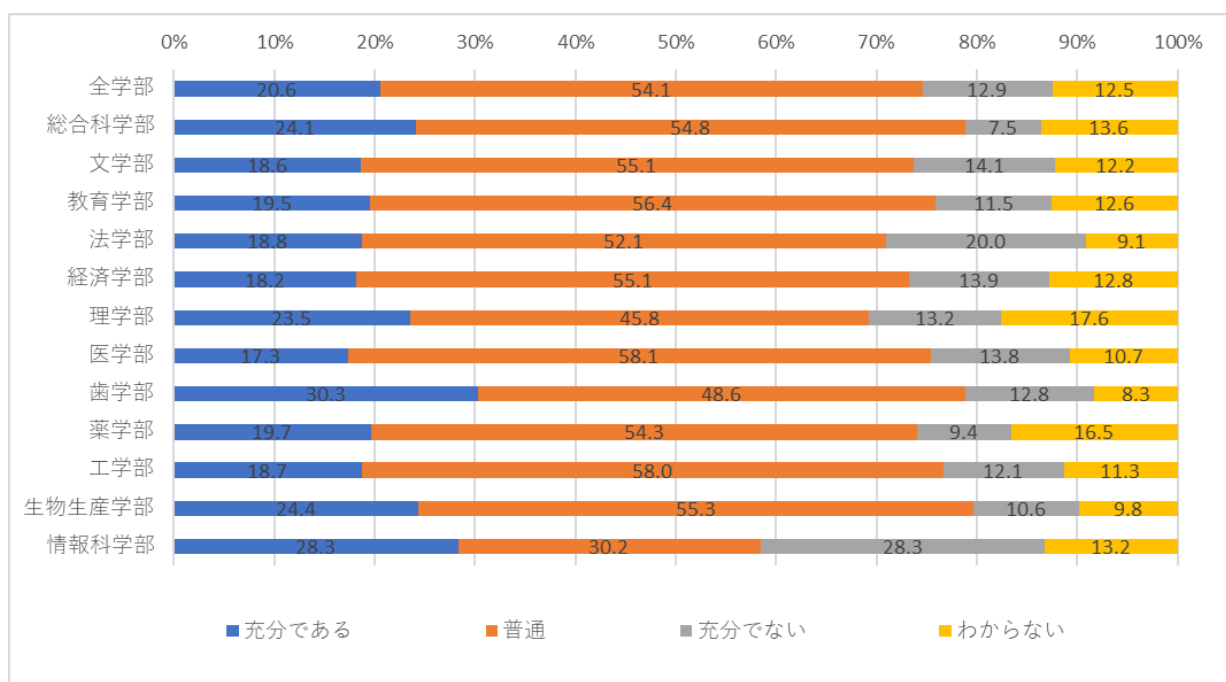


17 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス

設問 30 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート（支援）体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。

多くの学部で「充分である」「普通」の合計が70%前後に届いている。ボリュームゾーンが「普通」であり、5割前後となっている。「充分」と答える学生の割合を向上させる策を今後検討するべきであろう。

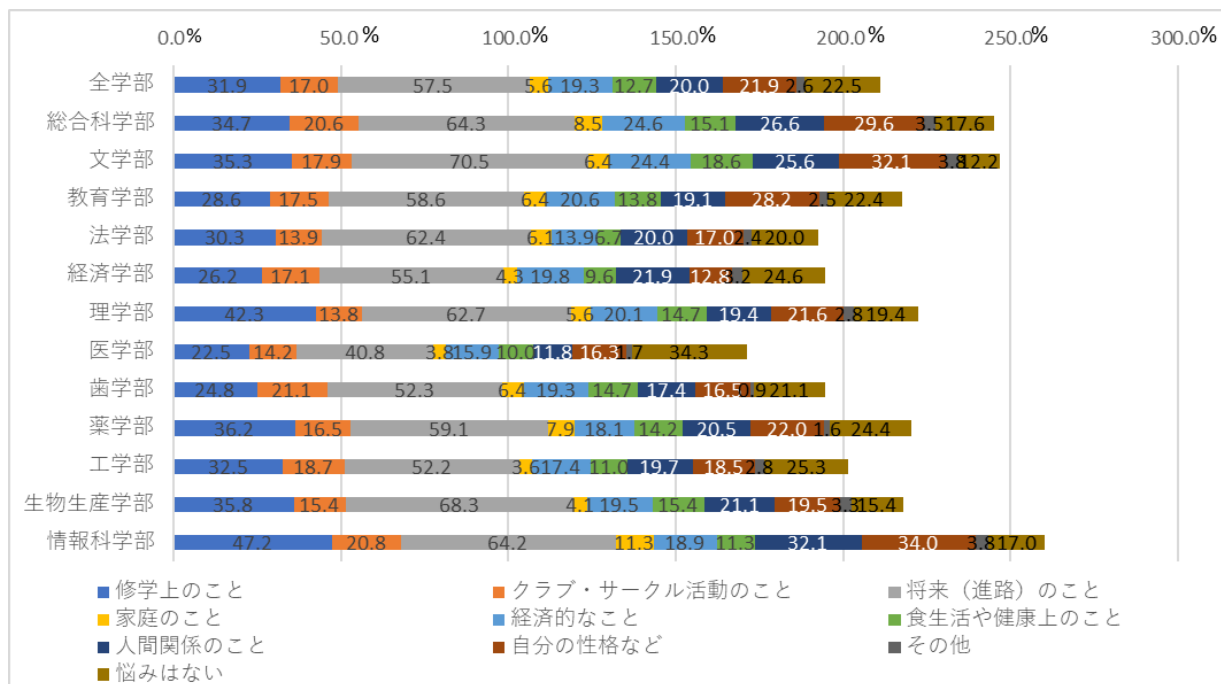
情報科学部の学生において「充分でない」の割合が高い点には注意をするべきであり、その要因を探索する必要がある。



18 学生生活の悩み

設問 31 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)

どの学部においても学生生活の悩みとして「将来（進路）のこと」と回答した学生が最も多く、全体としては57.5%で前回より6.4%増加していた。次に多かったのが「修学上のこと」(31.9%)で、「自分の性格」(21.9%)、「人間関係のこと」(20.0%)、「経済的なこと」(19.3%)と続き、これらの傾向は前回と同様であった。

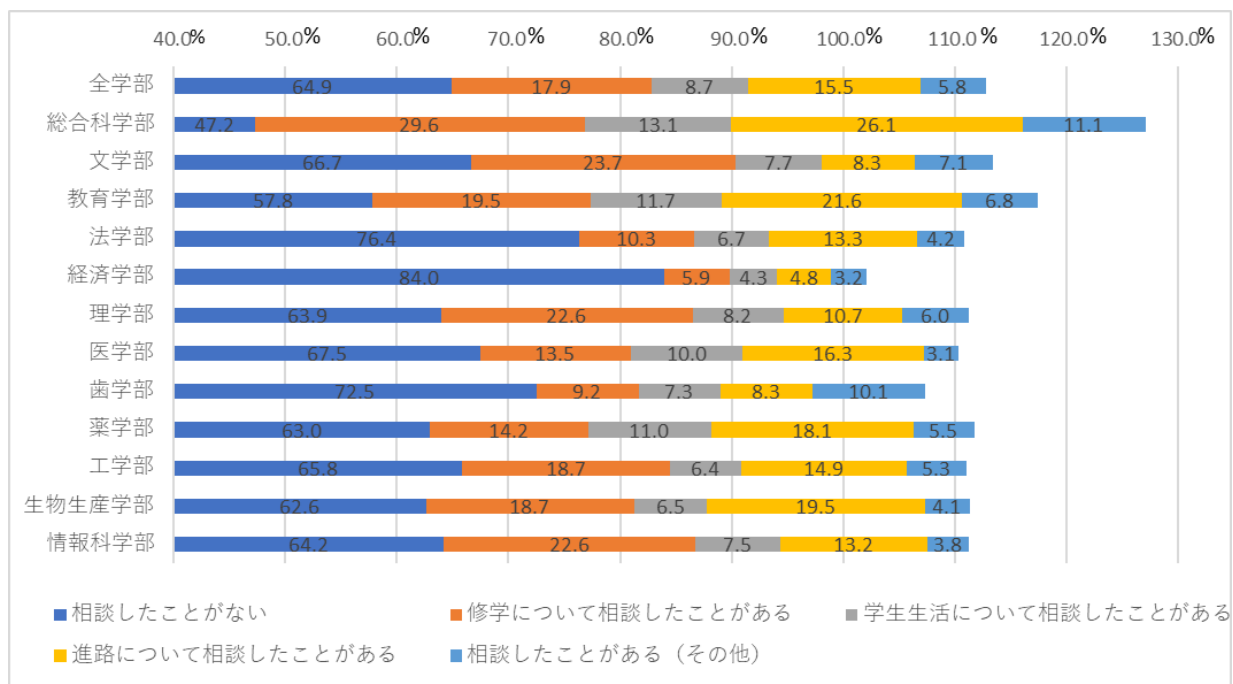


19 相談内容と相談窓口

設問 32 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいますが、チューターに相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。(複数回答可)

全体としては64.9%が「相談したことがない」と回答しており、前回とほぼ同じ傾向であった。また学部によってばらつきがあり、「相談したことがない」という回答が多かったのは、経済学部(84.0%)、法学部(76.4%)、歯学部(72.5%)であった。情報科学部は前回77.8%から今回64.2%となっており、チューターへの相談率が上がっていた。相談内容については、「修学」と「進路」が多く、前回同様の結果であった。

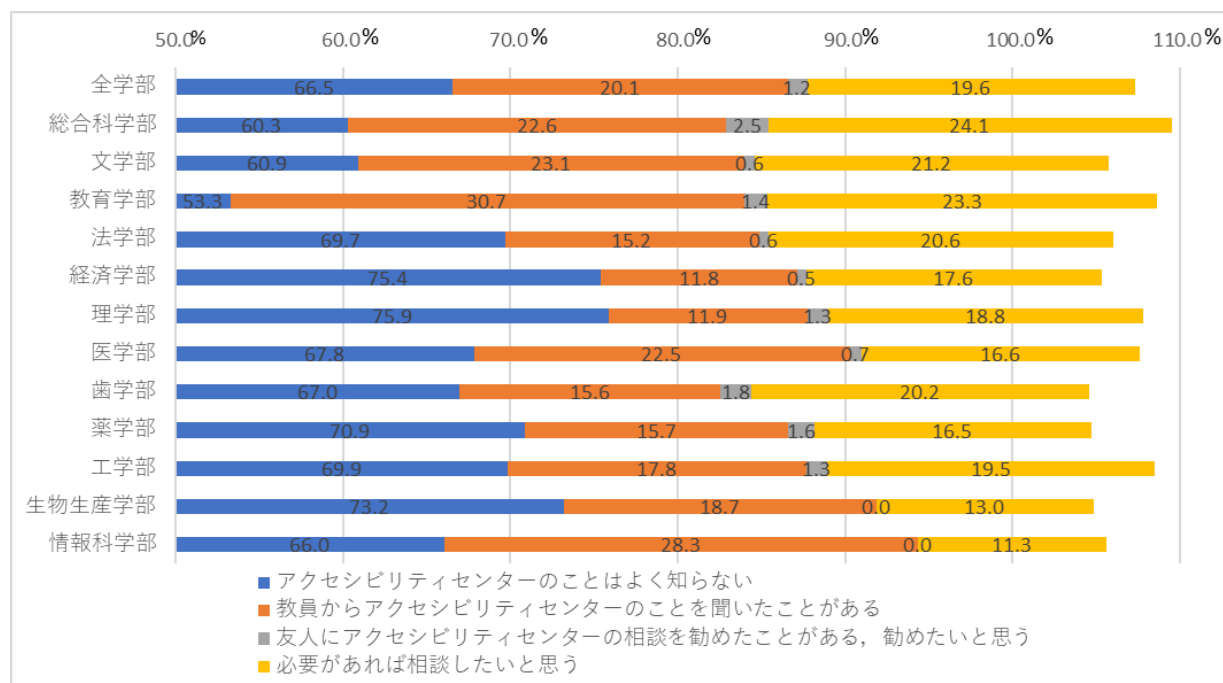
※ グラフの目盛りの最小値は40%



設問 33 アクセシビリティセンターについて伺います。(複数回答可)

アクセシビリティセンターのことはよく知らない学生は全学部合計で 66.5%であるが、「教員からセンターのことを聞いたことがある」と「必要があれば相談したいと思う」はそれぞれ 20%前後あり、実際に「友人に相談を勧めた・勧めたいと思う」は多くの学部で 1%前後あった。全学部で教員から学生に紹介はされていると思われるが、さらに認知度を上げて学生支援につながるようにする必要がある。

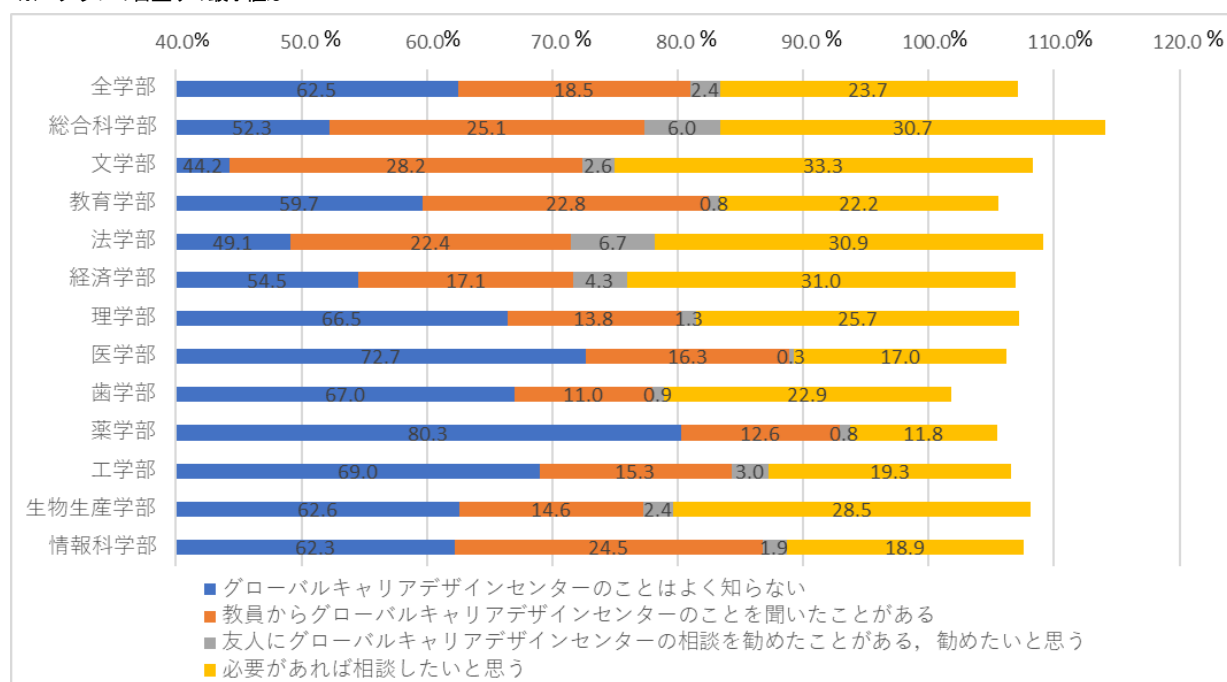
※ グラフの目盛りの最小値は50%



設問 34 グローバルキャリアデザインセンターについて伺います。(複数回答可)

学部生の約 63%は「グローバルキャリアデザインセンターのことはよく知らない」と回答しており、特に霞キャンパスを中心に認知度が低くなっている。また、東広島キャンパスにおいても、理工系の学部を中心に 6割以上の学生が「よく知らない」と回答をしている。「教員からグローバルキャリアデザインセンターのことを聞いたことがある」、「必要があれば相談したいと思う」との回答はそれぞれ 2割前後となっている。前回調査と比べて、全体的に認知度の向上は認められるものの、依然として、周知が十分とは言えない状況である。

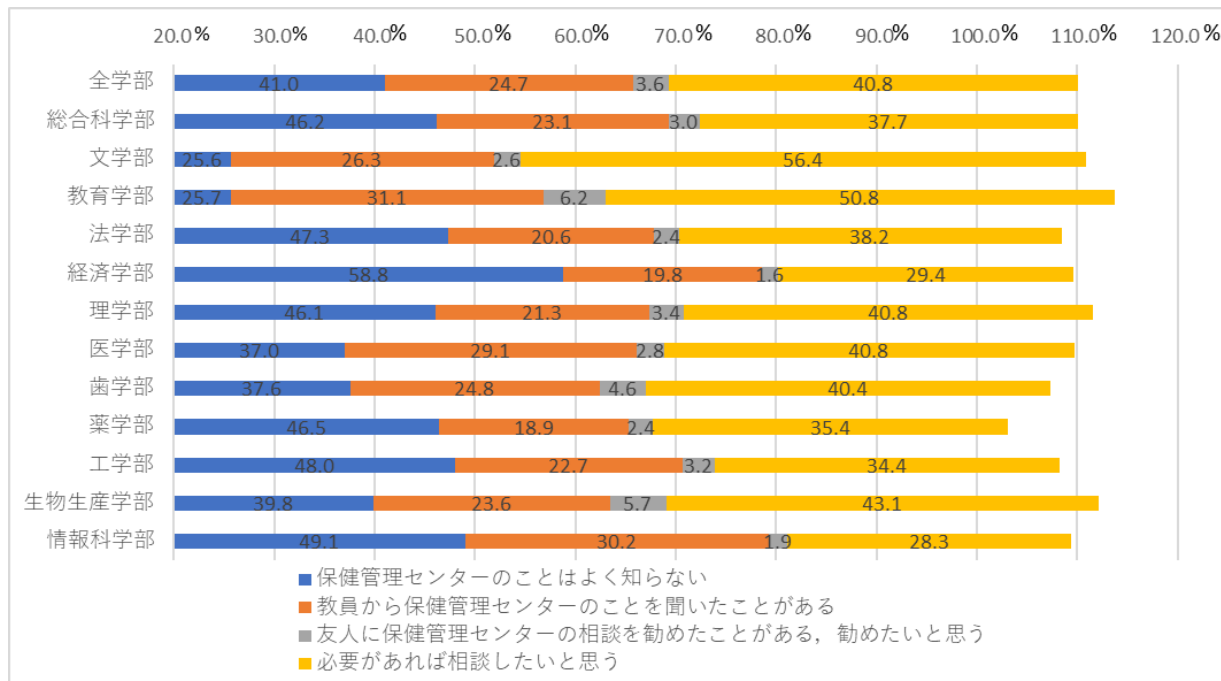
※ グラフの目盛りの最小値は40%



設問 35 保健管理センターについて伺います。(複数回答可)

全体として前回同様、約4割が「保健管理センターのことはよく知らない」という結果であった。「教員から聞いたことがある」は24.7%、「必要があれば相談したい」40.8%であり、これも前回同様であった。一方学部によってばらつきがあり、「よく知らない」という回答がもっとも多かったのは経済学部(58.8%)、逆に少なかったのは文学部(25.6%)と教育学部(25.7%)で、後者の2部局においては「教員から聞いたことがある」割合が高く、「必要があれば相談したいと思う」という回答も5割を超えていた。

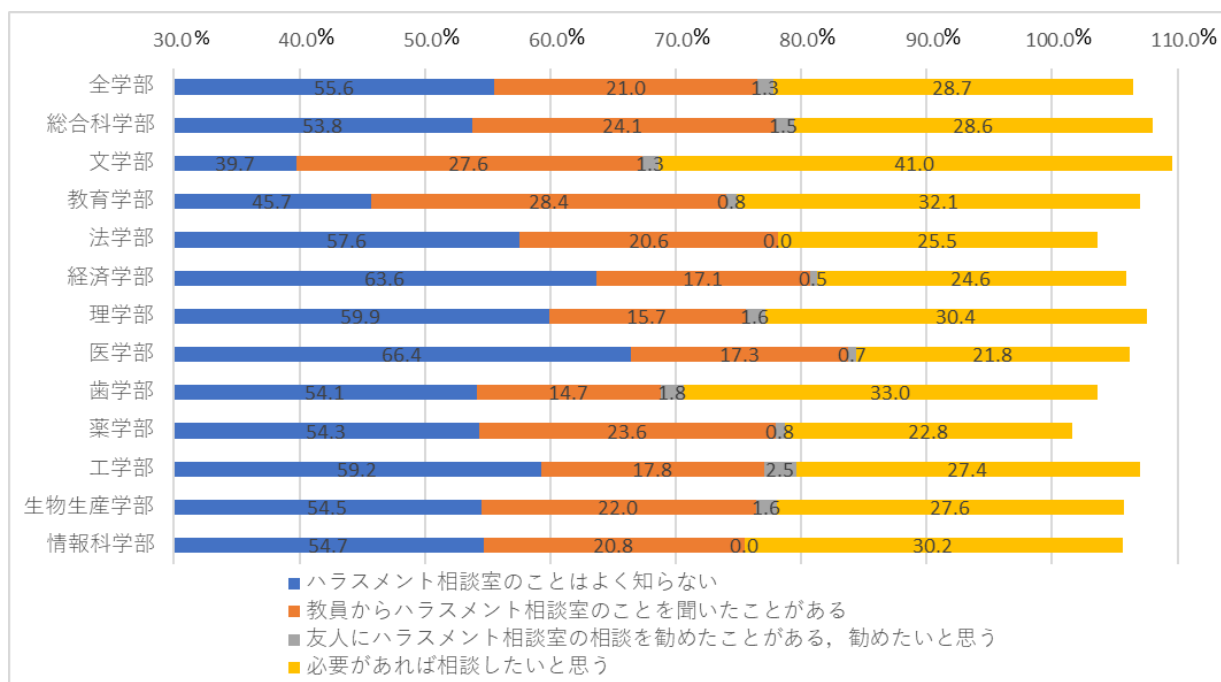
※ グラフの目盛りの最小値は20.0%



設問 36 ハラスメント相談室について伺います。(複数回答可)

グラフを見てもわかるように、文学部、教育学部を除いて、他の学部ではハラスメント相談室自体の存在が知られていない可能性が高く、50%以上の学生が「知らない」と答えている。この点は大学運営上の課題であり、オリエンテーションや各タームの授業の前にガイダンスを定期的に行うなどの策を講じる必要性を感じる。

※ グラフの目盛りの最小値は30.0%

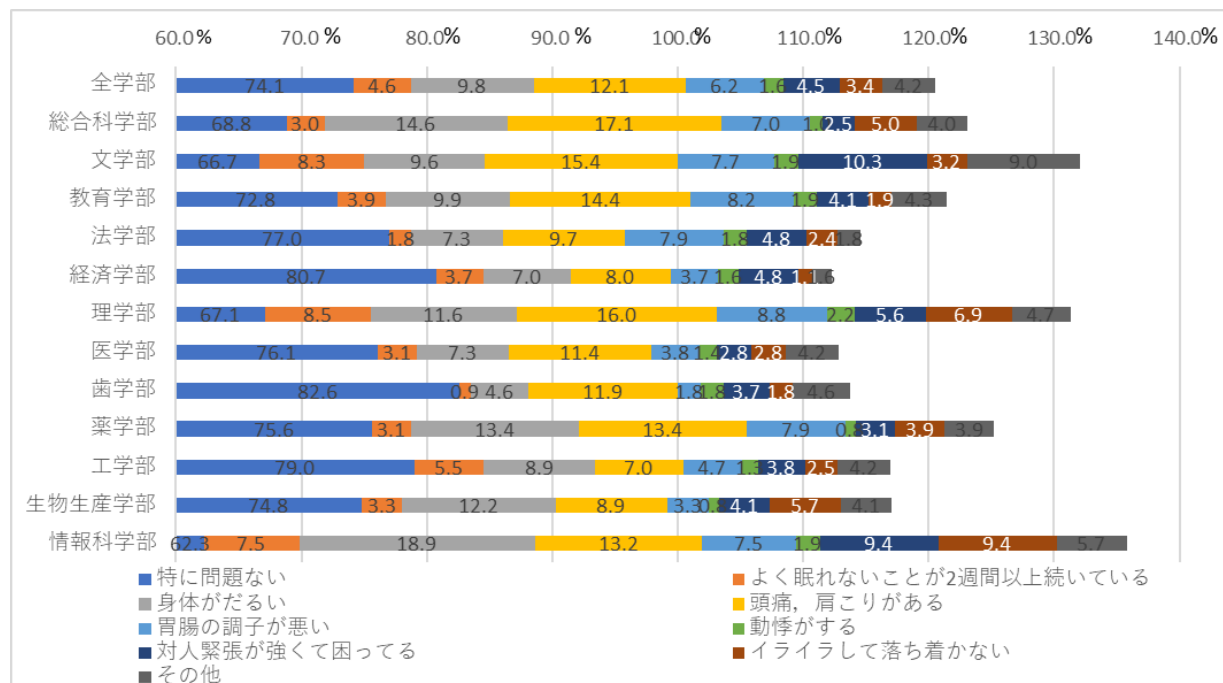


20 現在の健康状態

設問 37 現在の健康状態はどうか。(複数回答可)

全体として 74.1%が「特に問題ない」という結果で、前回より 6.9%上がっている。不調の訴えとして多かったのは「頭痛・肩こり」12.1% (前回 14.1%) と「身体がだるい」9.8% (前回 15.3%) であるが、いずれも前回と比較してその割合は低くなっている。しかしながら、「2週間以上の不眠が続いている」が4.6%(前回 4.9%) 存在しており、この傾向は近年変わっていない。

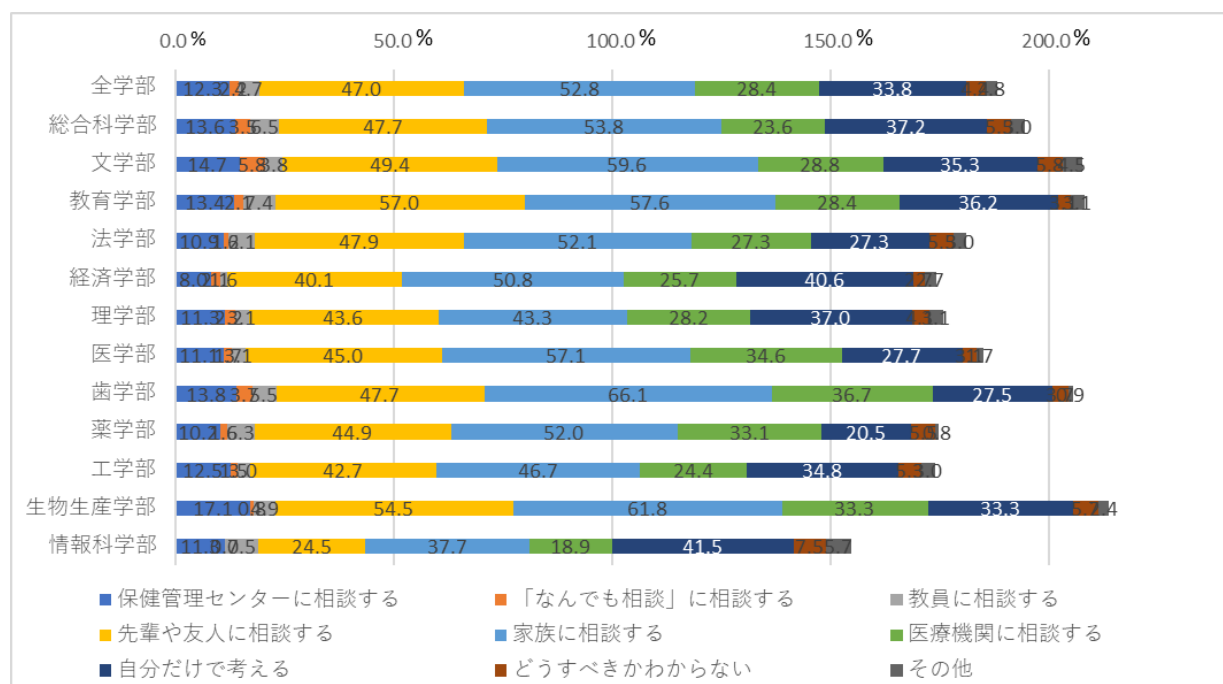
※ グラフの目盛りの最小値は60%



21 身体面・心理面の悩み解消

設問 38 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、解消に向けてどうしますか。(複数回答可)

今回調査では、相談する相手としてもっとも多かったのは「家族」52.8%であり、次が「先輩や友人」47.0%という結果であった。これまでの調査では、「先輩や友人」が常にトップに来ていたが、コロナ禍の自粛によって先輩や友人と直接会う機会が減少したことが背景にあるかもしれない。次が「医療機関」、「保健管理センター」と続くが、「保健管理センターに相談する」は前々回(8.1%)、前回(10.6%)から今回12.3%と漸増している。

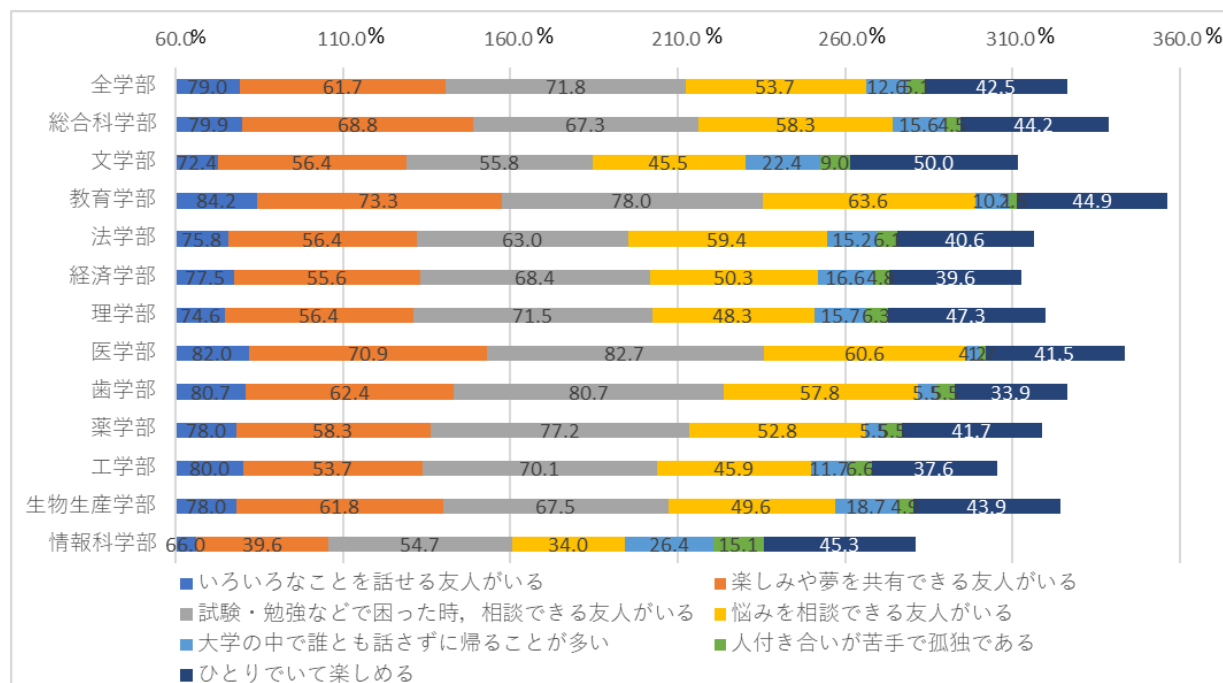


2.2 友人との関係

設問 39 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

全体では、8割近くの学部生が「いろいろなことを話せる友人がいる」と回答している。一方、前回の調査と比べると、「人付き合いが苦手で孤独である」と回答する学生の割合は6%と殆ど変わらないものの、「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」と回答している学生は13%と、やや高くなっている。

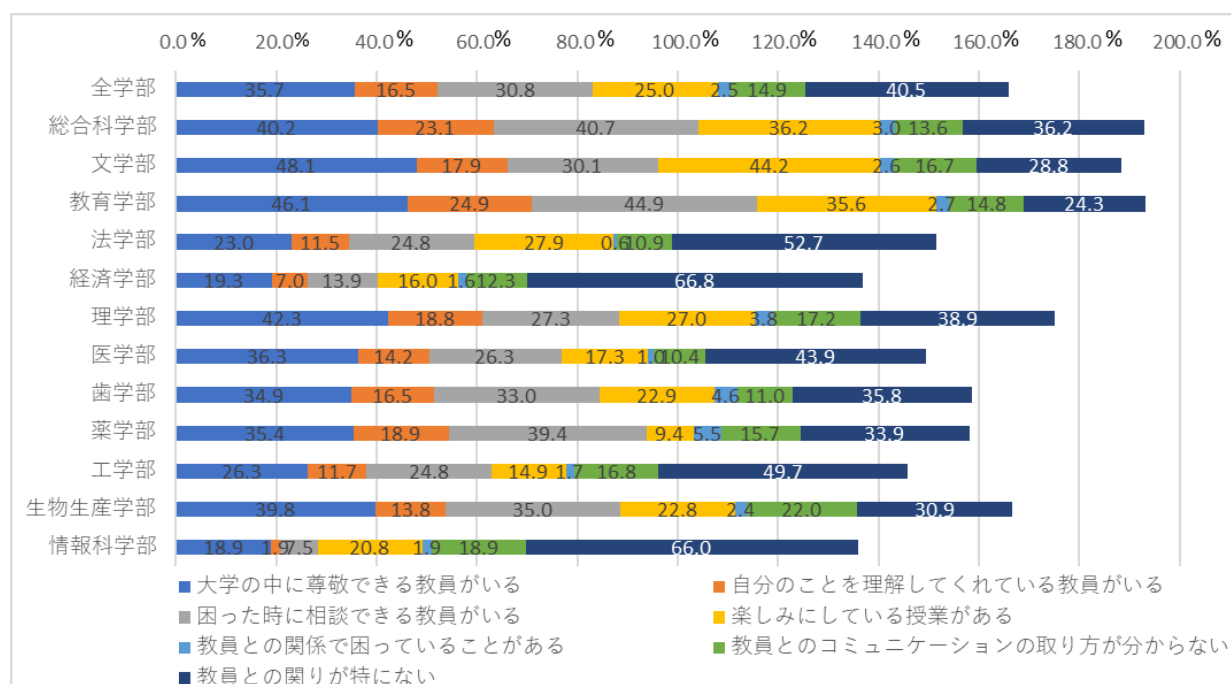
※ グラフの目盛りの最小値は60%



2.3 教員との関係

設問 40 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

「大学の中に尊敬できる教員がいる」と回答した学部生は全体で36%であるが、学部によって最大で20ポイント程度の差がある。一方で、「教員との関りが特にない」と回答した学生は全体の4割を占めており、経済学部と情報科学部では約3分の2を占めている。過去数年間の調査と比べても、「教員との関りが特にない」と回答する学生の割合が全体的に高くなっており、特に学部一年生にとっては、新型コロナウイルス感染症の流行により、教員との対面機会が減少したことが一つの要因として考えられる。



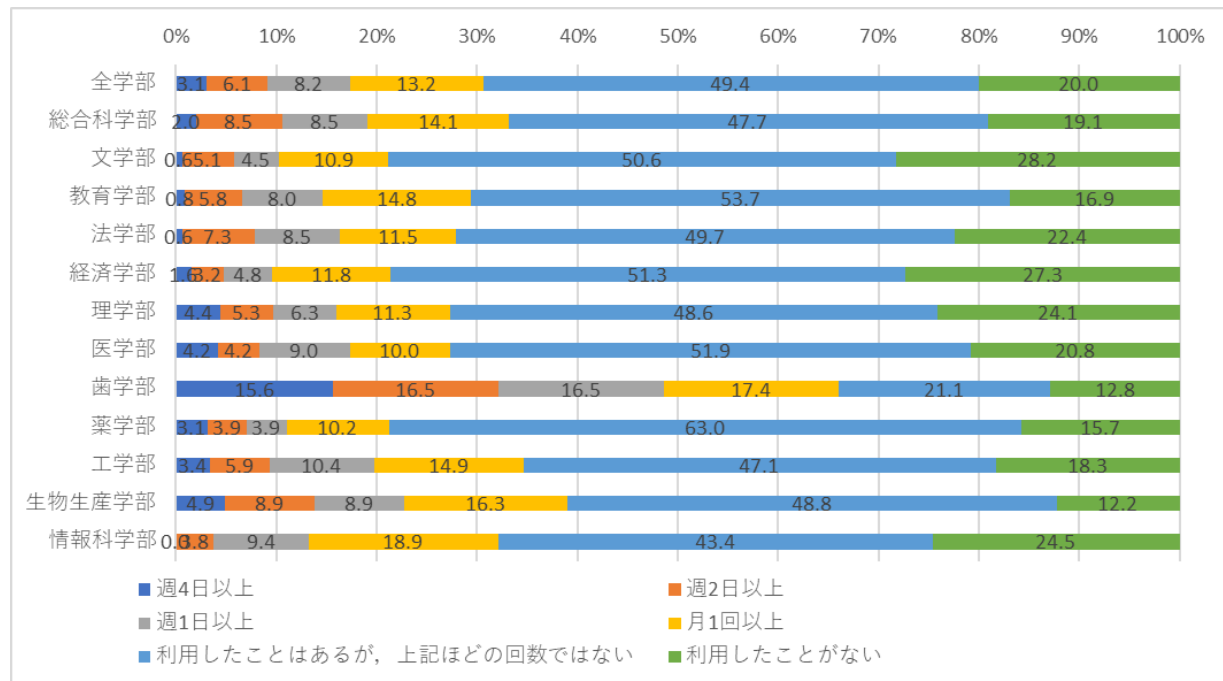
2.4 学生交流スペースの利用

設問 41 構内のフリースペースや多目的室を利用したことがありますか。利用している場合、どのくらいの頻度で利用しますか。

全体の 80.0%が利用したことがあるという結果になった。

全体の傾向としては、月 1 回未満の利用が最多で、月 1 回以上・週 1 日以上・週 2 日以上の利用がそれに続く形で同程度の割合であった。

学部別の傾向では、歯学部が他の学部と比べて月 1 回以上の利用の割合が 2 倍近くと高かった。



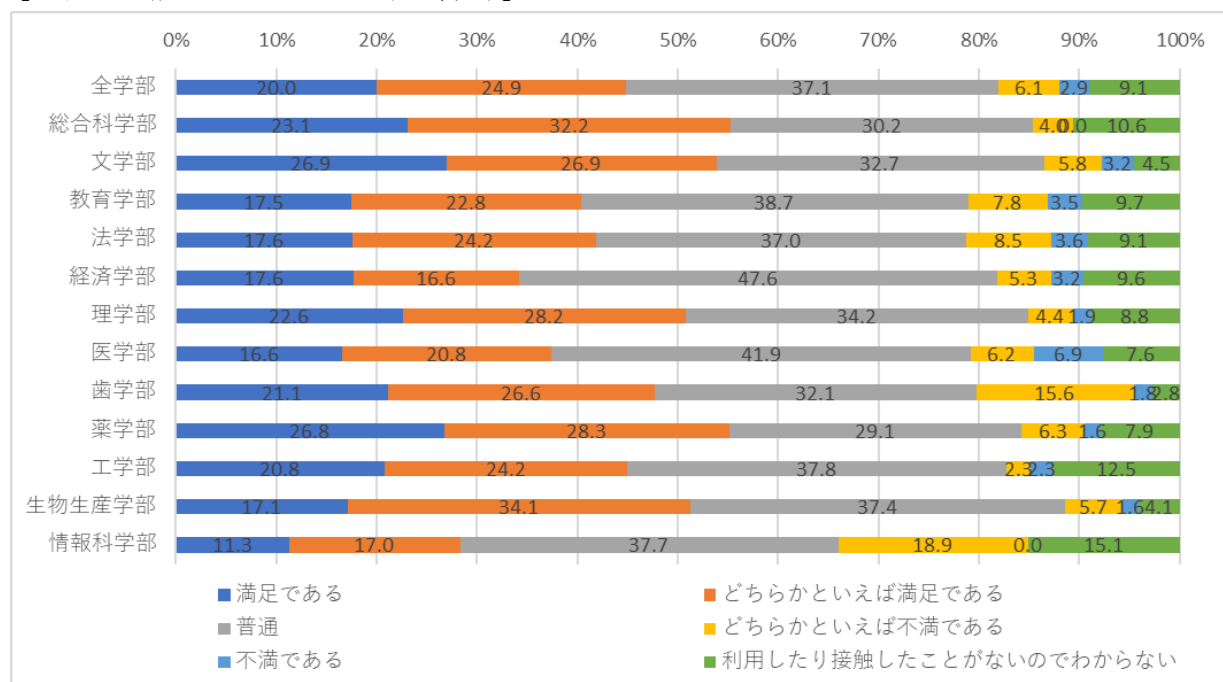
2.5 所属学部の学生支援室の対応

設問 42 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

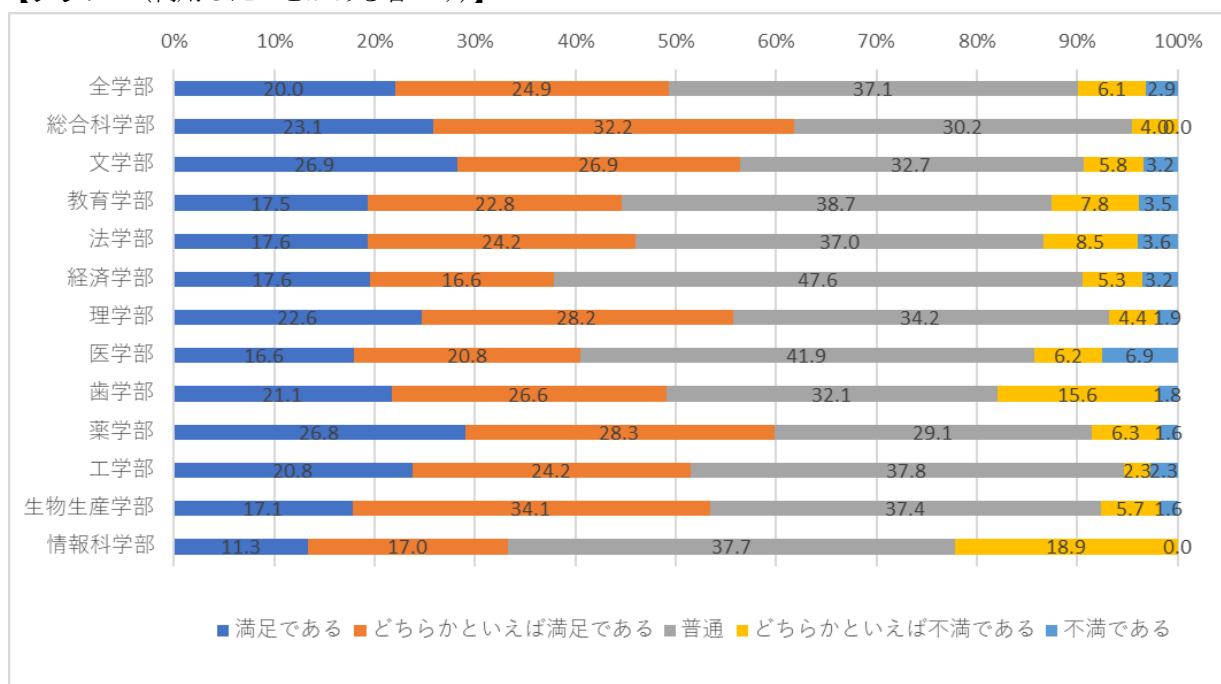
全体の 90.9%（グラフ 1）が学生支援室を利用したり接触したりしているが、そのうち「満足である」「どちらかといえば満足」と回答したのは 44.9%（グラフ 2）である。

利用したことがある者のうち「満足である」「どちらかといえば満足」と回答した割合（グラフ 2）が高いのは、総合科学部（55.3%）、薬学部（55.1%）である。また、教育学部、医学部、歯学部においては、前回調査と比較すると、「どちらかといえば不満」「不満である」の割合が減少している。

【グラフ 1（利用したことがない者を含む）】



【グラフ2 (利用したことがある者のみ)】

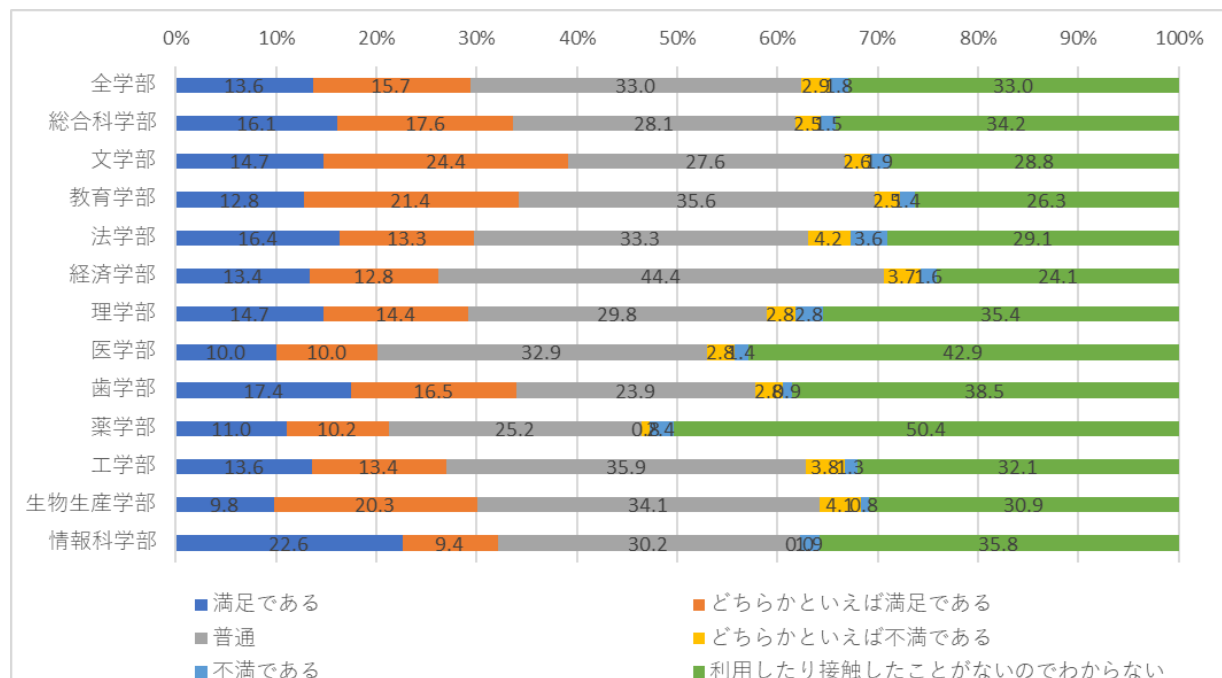


2.6 学生プラザの学生支援部門の対応

設問 43 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

全体の 67.0%が学生プラザの学生支援部門を利用したり接触したりしており、前回調査と同程度であった。東広島キャンパスに通う機会の少ない医学部、歯学部、薬学部は利用したり接触したりした割合が低い。

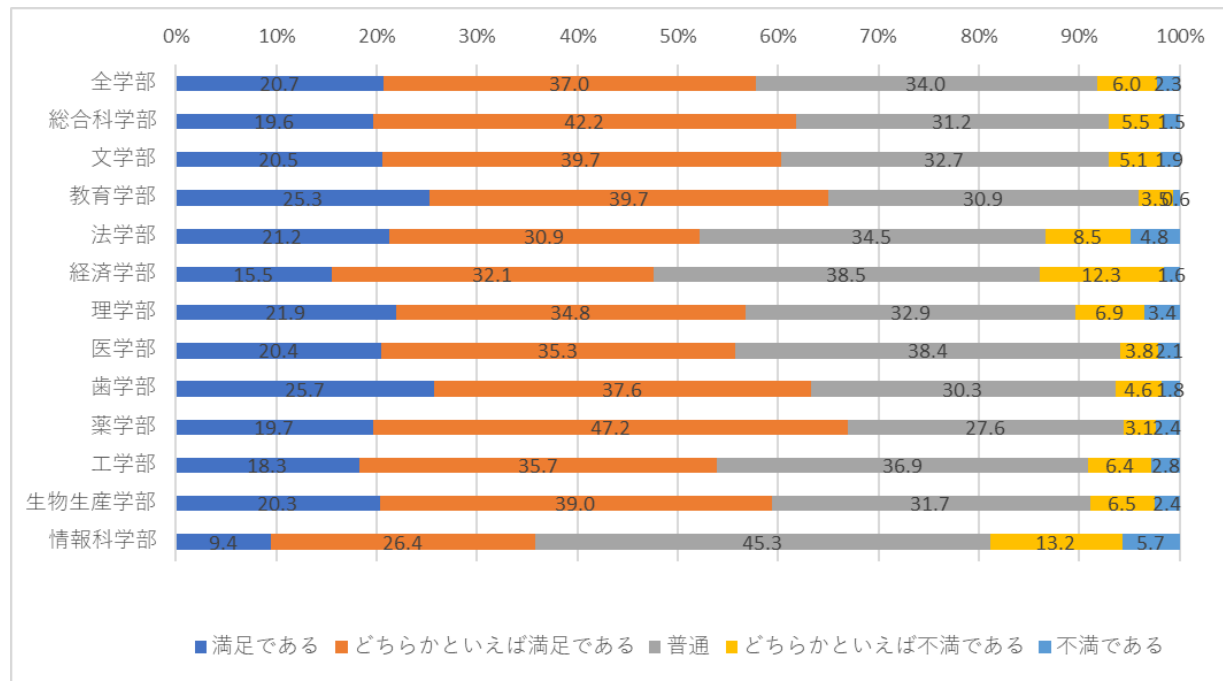
また、「満足である」、「どちらかといえば満足」と回答した割合と「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合は前回調査と同様の傾向であった。



27 本学の教育・学習、学生生活などの全体的な満足度

設問 44 本学での教育・学習、学生生活などに関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか。

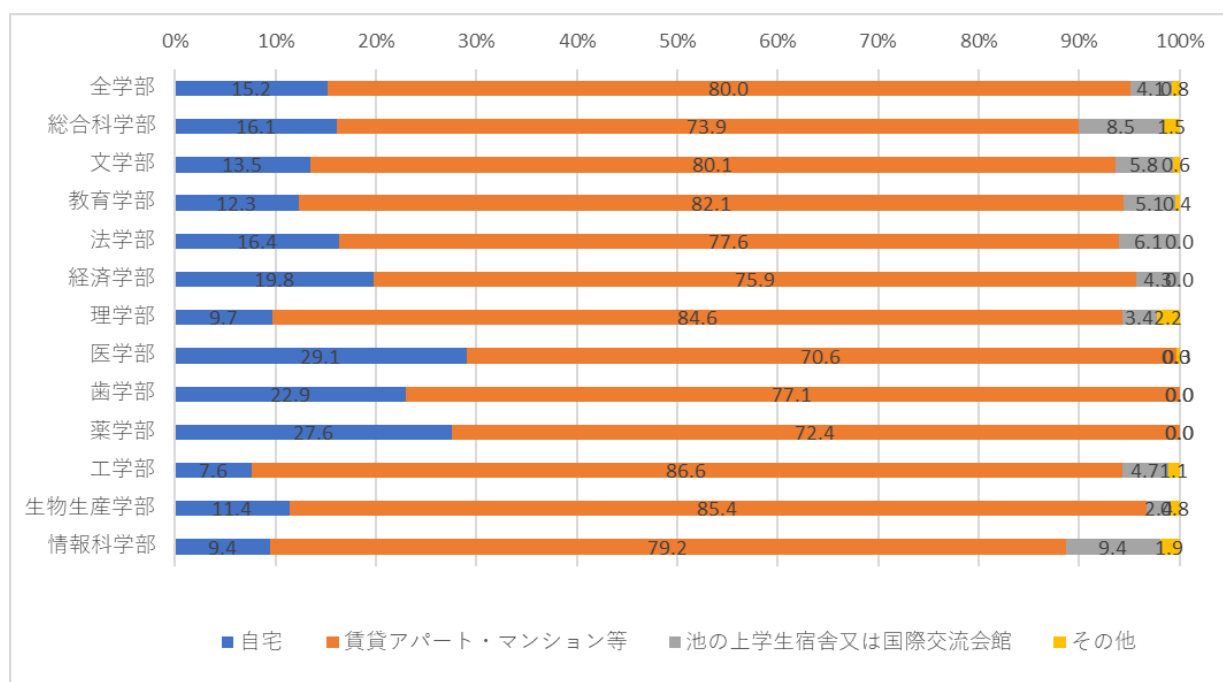
多くの学部において、およそ5割前後が満足を感じている。普通も合わせると80%を超えることがわかる。本学としては、満足度の割合をさらに上げられるような方策を考える必要がある。懸念されるのは情報科学部であり、学生の「満足」の割合が4割を下回っている点である。他の項目についても情報科学部の特異性が目立っていることから、早急に情報科学部のあり方を再考する必要があるように思われる。



28 居住形態

設問 45 居住形態を教えてください。

医歯薬を除く多くの学部の学生の大半は、賃貸アパート・マンション等に住んでいることがわかる。医歯薬系の学生の自宅割合の高さは、おそらく広島県の医歯薬系の家庭出身者が多いことに起因すると思われる。



29 通学方法

設問 46 通学方法を教えてください。(複数回答可)

学部間に大差は見られず、徒歩通学が4割、自転車通学者がボリュームゾーンを形成し7〜8割前後であることがわかる。

